市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第48集

市原市南大広遺跡（C地区）

２０２０

有限会社市原土地建物センター
市　原　市　教　育　委　員　会

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第48集

市原市南大広（みなみおおひろ）遺跡（C地区）

２０２０

有限会社市原土地建物センター
市　原　市　教　育　委　員　会

例 言 ・ 凡 例

1　本報告書は、千葉県市原市山木字南大広44番1の一部に所在する南大広遺跡（C地区）の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、戸建専用住宅用地の造成に伴い、有限会社市原土地建物センターの委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもと、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した。

3　発掘調査は開発範囲29,110.8㎡のうち、3,152.991㎡を対象として実施した本調査である。これは令和元年度に市原市の国庫補助事業として埋蔵文化財調査センターが実施した8,890㎡の確認調査の結果を受けたものである。

4　発掘調査・整理作業は以下のとおりに行った。

確認調査　令和元年 5 月 7 日～令和元年 5 月30 日　担当　小川浩一

本調査　　令和元年 7 月16日～令和元年 9 月20 日　担当　浅野健太・中野喬介

整理作業　令和元年10 月 1 日～令和元年11月29 日　担当　浅野健太

5　本書の執筆は浅野健太が行った。

6　南大広遺跡（C地区）の調査コードはセ571（確認調査）・セ573（本調査）である。

7　出土遺物と記録類は、市原市教育委員会生涯学習部ふるさと文化課埋蔵文化財調査センター（千葉県市原市能満1489番）で収蔵・保管している。

8　図版2の空中写真については、中村照雄氏に撮影いただいた。出土石製品の材質鑑定については、パリノ・サーヴェイ株式会社坂元秀平氏にお願いした。記して謝意を表します。

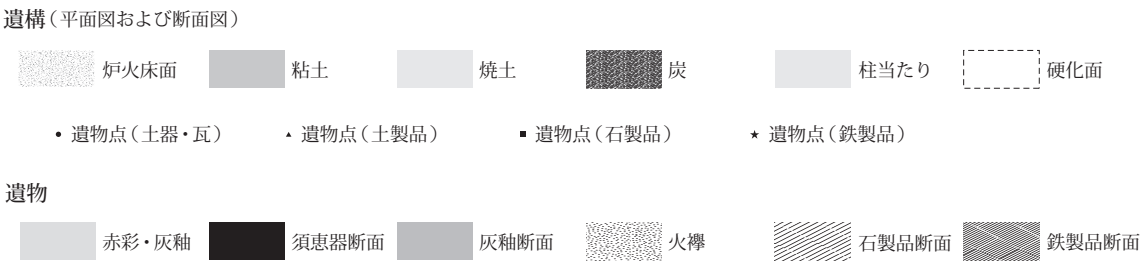
9　図版3はAgisoft Metashape Professional（64bit）ver.1.5.2により作成した。

10　平面図及び土層断面の「K」は撹乱を示している。

11　本書で示す北は座標北である。また、水準は海抜からの高さを示す。

12　土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社による。

13　挿図におけるスクリーントーン・遺物表示の用例は下記による。



本 文 目 次

1　調査に至る経緯 …… 1

2　遺跡周辺の環境
地理的環境 …… 1
歴史的環境 …… 1

3　調査の成果
（1）調査概要 …… 4
（2）遺構と遺物 …… 4
竪穴建物跡 …… 4
古墳 …… 18
土坑 …… 18
遺構外 …… 25

4　まとめ …… 26

挿 図 目 次

第 1 図　南大広遺跡及び周辺遺跡位置図 …… 2
第 2 図　南大広遺跡周辺地形図 …… 2
第 3 図　調査区全体図 …… 3
第 4 図　SI001 平面図・断面図・遺物実測図 …… 6
第 5 図　SI002 平面図・断面図、SI003 平面図・断面図 …… 7
第 6 図　SI002 遺物実測図（1） …… 8
第 7 図　SI002 遺物実測図（2） …… 9
第 8 図　SI004 平面図・断面図 …… 10
第 9 図　SI004 遺物実測図 …… 11
第 10 図　SI005 平面図・断面図・遺物実測図 …… 12
第 11 図　SI006 平面図・断面図 …… 13
第 12 図　SI006 遺物実測図（1） …… 14
第 13 図　SI006 遺物実測図（2） …… 15
第 14 図　SI007 平面図・断面図 …… 16
第 15 図　SI007 遺物実測図 …… 17
第 16 図　SM001 平面図 …… 19
第 17 図　SM001 断面図・遺物実測図 …… 20
第 18 図　SM002 平面図・断面図・遺物実測図 …… 21
第 19 図　SK001 ～ SK005 平面図・断面図、SK003・SK004 遺物実測図 …… 22
第 20 図　SK006 ～ SK013 平面図・断面図 …… 23
第 21 図　SK014・SK015 平面図・断面図、遺構外 遺物実測図 …… 24
第 22 図　供膳具比率 …… 26

写 真 図 版 目 次

図版 1　南大広遺跡周辺空中写真
図版 2　遺構　完掘全景
図版 3　遺構　SK005 三次元モデル画像
図版 4　遺構　調査前全景　表土掘削　調査区北側遺構検出状況　調査区南側遺構検出状況
調査風景　SI001
図版 5　遺構　調査風景　SI001　SI002
図版 6　遺構　SI002　SI003　SI004
図版 7　遺構　SI004　SI005　SI006
図版 8　遺構　SI006　SI007
図版 9　遺構　SI007　SM001
図版 10　遺構　SM002　SK001
図版 11　遺構　SK002　SK003　SK004　SK005
図版 12　遺構　SK005　SK006　SK007　SK008　SK009　SK010
図版 13　遺構　SK011　SK012　SK013　SK014　SK015　調査区全景　調査区南側全景
調査区北側全景
図版 14　遺物　SI002　SI004　SI005　SI006
図版 15　遺物　SI001　SI002　SI006　SI007
図版 16　遺物　SI002　SI004　SI005
図版 17　遺物　SI006　SI007
図版 18　遺物　SI007　SM001　SM002　SK003　SK004　遺構外

表 目 次

第 1 表　出土土器観察表…… 28
第 2 表　出土土製品観察表…… 32
第 3 表　出土石製品観察表…… 32
第 4 表　出土鉄製品観察表…… 32

1　調査に至る経緯

今回の発掘調査は千葉県市原市山木字南大広44番1の一部における戸建専用住宅用地の造成に伴い実施したものである。

有限会社市原土地建物センターは造成に先行して、平成31年3月11日付けで、文化財保護法第93条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」を千葉県教育委員会教育長及び市原市教育委員会教育長宛に提出した。

届出を受けて市原市教育委員会が試掘を実施した結果、遺構と遺物が検出されたため、事業範囲の内8,890㎡を対象に、市原市教育委員会が国庫補助事業として確認調査を行った。

確認調査の結果に基づき、有限会社市原土地建物センターと千葉県教育委員会及び市原市教育委員会との協議を行い、現状保存が困難な3,152.991㎡を対象として今回の本調査を実施することとなった。

2　遺跡周辺の環境

地理的環境（第1図）

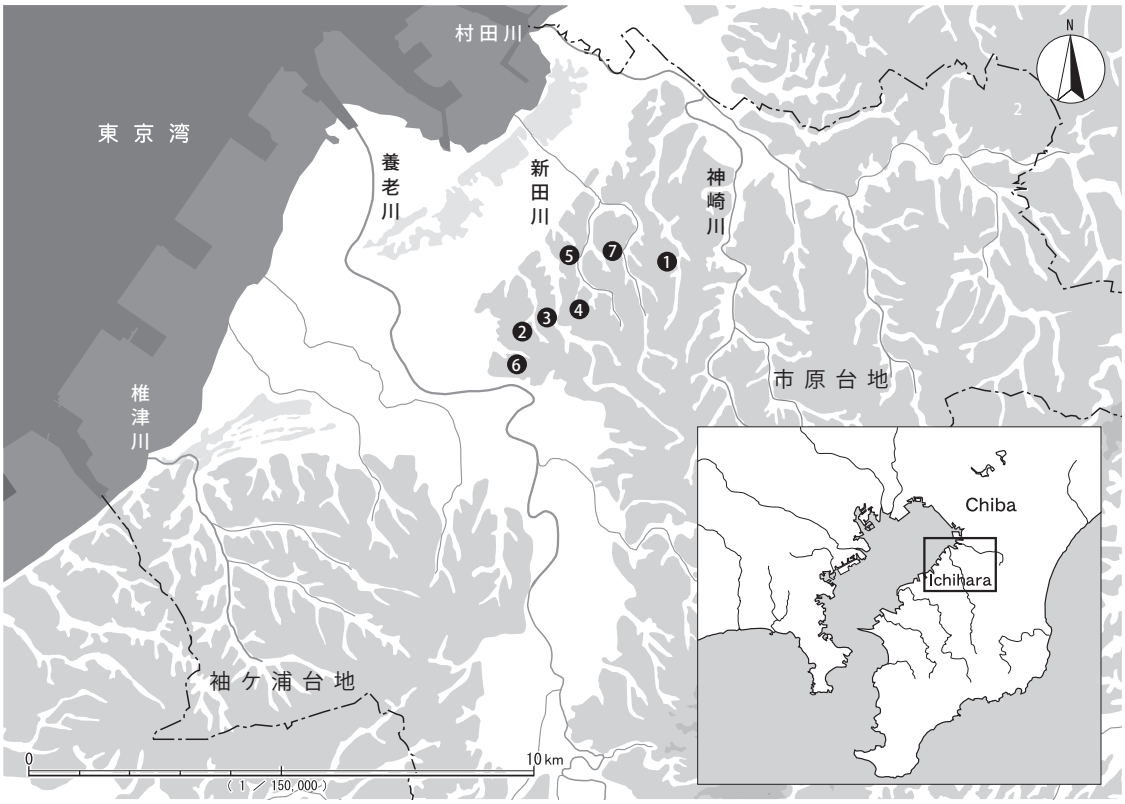
南大広遺跡は、東京湾に注ぐ村田川支流の小河川により開析された支谷に面する標高約35ｍの台地上の現在の宇部興産社宅一帯に位置する。

歴史的環境（第1・2図）

南大広遺跡の西方約1.8kmには、上総国府推定地である郡本遺跡群が広がる。その周辺には平安時代国衙の祭祀遺跡とみられる稲荷台遺跡や、上総国分僧寺跡、上総国分尼寺跡があり、これらの遺跡を中心として国府域が広がっていたことが推測される。また、上総国分寺の南西約750ｍには古墳時代終末期から平安時代にかけての墓域である諏訪台古墳群が広がり、国府域における墓域の展開を考えるうえで注目される（北見ほか2015）。さらに郡本遺跡群と南大広遺跡の間の台地上には、中世国衙の守護所と目される能満城跡がある（近藤2006）。

南大広遺跡の周辺では、8世紀前半ごろの方墳が検出された定掘込古墳群や、幅約3mの断面逆台形の平安時代の溝が検出された東四辻遺跡がある（近藤1989）。

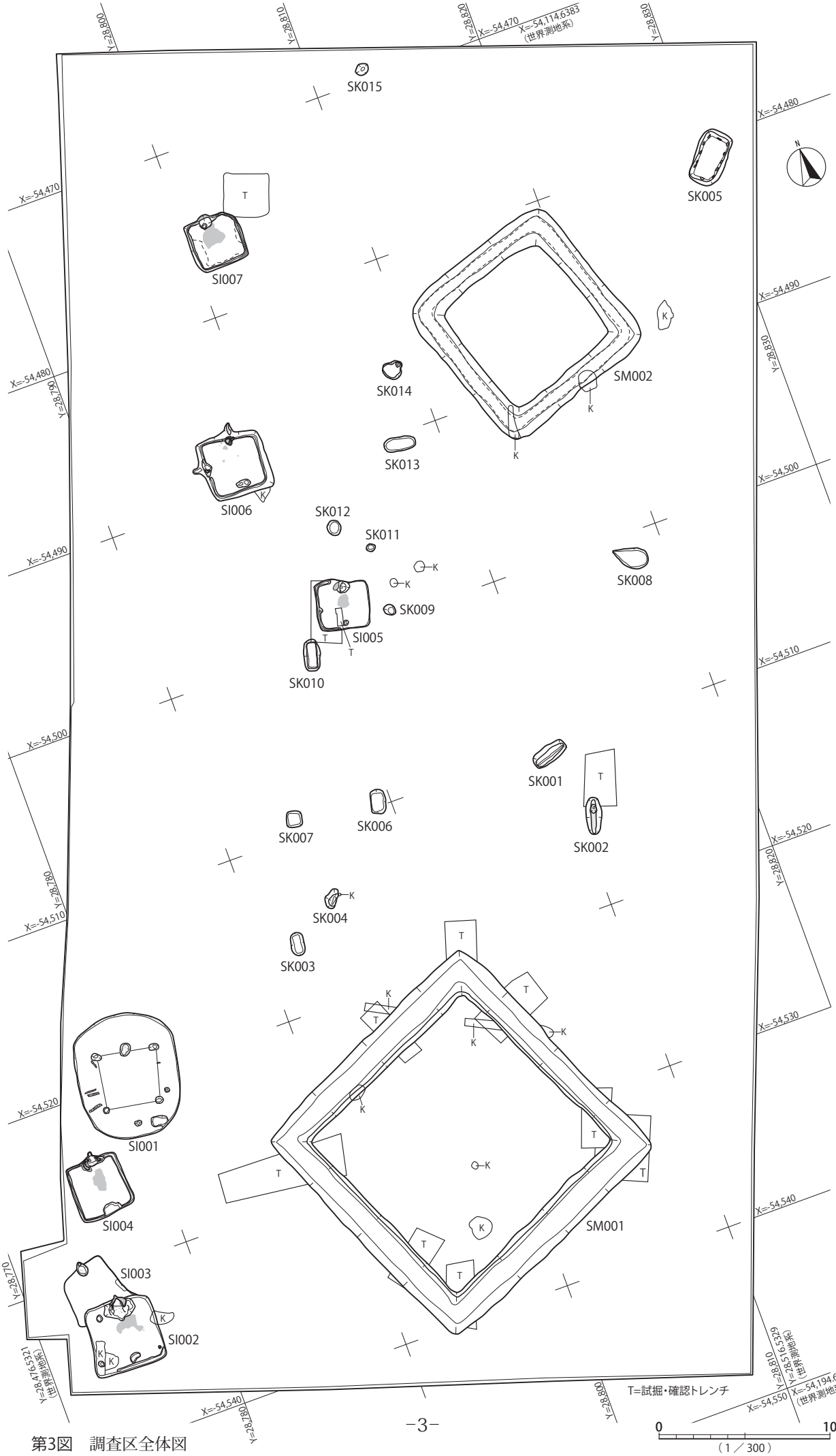
南大広遺跡はこれまで2回の発掘調査が実施されている。1回目の調査は昭和42年に宇部興産社宅建設に先立ち、早稲田大学考古学研究室により実施された（以下A地区）。A地区での調査では竪穴建物跡2棟が検出され、このうち1棟を切る形で製鉄遺構も検出された。いずれも平安時代に属する。この調査では墨書土器13点が出土し、その中には「寺」銘墨書が存在したが、この「寺」については上総国分寺や千草山廃寺を指すものとし、これらの寺院遺跡に鉄製品を供給したものと南大広遺跡の性格を位置づけた（坂井・市毛1968）。平成3年にはA地区南側での宅地造成工事に先行し、確認調査を実施した（以下B地区）。この調査では、古墳時代後期の溝1条、奈良・平安時代の竪穴建物跡5棟、掘立柱建物跡2棟、溝2条、方形基壇1基、小鍛冶跡1基を検出した（浅利1992）。なかでも方形基壇の存在から、南大広遺跡を古代寺院としてとらえることが可能となった。さらに基壇中心部には、蕨手刀が埋納されており、萩ノ原遺跡に類似する鎮壇を行っていることが想定される。



❶南大広遺跡　❷上総国分僧寺跡　❸上総国分尼寺跡　❹稲荷台遺跡
❺郡本遺跡群　❻諏訪台古墳群　❼能満城跡

第1図　南大広遺跡及び周辺遺跡位置図

第2図　南大広遺跡周辺地形図


Y=-28,800
Y=-28,810
Y=-28,820
X=-54,470
X=-54,114.6383
(世界測地系)
Y=-28,830
X=-54,480
X=-54,470
X=-54,490
Y=-28,790
Y=-28,830
X=-54,500
X=-54,480
X=-54,490
X=-54,510
X=-54,500
Y=-28,780
X=-54,510
X=-54,520
Y=-28,820
X=-54,520
X=-54,530
Y=-28,770
X=-54,540
X=-54,540
Y=-28,810
Y=-28,800
X=-54,550
Y=-28,479.1227
(世界測地系)
X=-54,194.6374
(世界測地系)
SK015
SK005
SI007
SM002
SK014
SK013
SI006
SK012
SK011
SK008
SK009
SI005
SK010
SK001
SK002
SK007
SK006
SK004
SK003
SI001
SI004
SM001
SI003
SI002
T=試掘・確認トレンチ
0
10m
(1／300)

第3図　調査区全体図

3　調査の成果

（1）調査概要（第３図）

今回の調査は確認調査の結果を受けて実施したC地区3,152.991㎡の調査である。調査前の現地は宇部興産社宅に隣接するグラウンドであった。測量基準点は座標値（日本測地系）を使用し、方眼杭を打設した。表土は重機により除去し、遺構プランを確認した。遺構の保存状況は、グラウンド建設時の造成により、調査区南側の表土が撹乱及び転圧を受けているほかは比較的良好だった。調査はB地区で検出された古代寺院の付属施設や、区画施設の検出を想定して行った。

（2）遺構と遺物

竪穴建物跡

SI001（第４図、図版４・５・15）

調査区南西側に位置し、形体は長円形である。規模は長軸7.31ｍ、短軸5.91ｍ、確認面からの深さは0.44ｍ、主軸方位はN−6°−Eである。硬化面は床全面に及ぶ。炉は長軸線上のP1、P2間に存在する。規模は長軸0.75ｍ、短軸0.61ｍ、深さ0.25ｍで焼土が厚く堆積する。壁溝は認められない。遺構の西側では炭化材が床面よりやや浮いた状態で出土した。主柱穴は４本で深さはP1が0.76ｍ、P2が0.75ｍ、P3が0.84ｍ、P4が0.64ｍである。径0.16 〜 0.20ｍほどの柱当たりを有する。P5が深さ0.20ｍで貯蔵穴、P6は深さ0.16ｍで梯子ピットとみられる。覆土はローム混入黒褐色土を主体とする自然堆積とみられる。土層の中間付近で焼土層がみられる。出土遺物１は弥生土器広口壺である。久ヶ原2式のものとみられる。2は甕胴部片、3は鉢口縁部片で内面に籾圧痕がみられる。１はP5覆土、２は床面付近、３は竪穴覆土からの出土である。

SI002（第５〜７図、図版５・６・14 〜 16）

調査区南西側に位置し、形体は正方形で、竪穴の南西隅と東側に撹乱土坑が入る。規模は長軸4.15ｍ×短軸4.05ｍ、確認面からの深さは0.36ｍ、主軸方位はN−2°−Eである。竪穴北辺の中心にカマドをもつ。硬化面は床全面に及ぶ。壁溝は竪穴南側から南東側にかけてのみみられる。柱穴は深さ0.52ｍのP1と、深さ0.20ｍのP2がみられるが、両者の深さは大きく異なり、この竪穴に伴う主柱穴はなかったとみられる。P3は深さ0.16ｍで梯子ピットとみられる。覆土はグラウンド造成時の転圧により非常に締まっていた。ローム混入暗褐色土を主体とする自然堆積とみられる。カマドからは多くの遺物が出土したが、カマドの袖は大きく壊れ、構築土の山砂がカマドの南側に散布していた。住居廃絶時における破壊とみられる。出土遺物は１〜６が土師器杯である。いずれもロクロ土師器であるが、４はやや箱型で古手の様相を呈す。５、６はやや大型である。７は土師器皿、８は土師器鉢である。９〜 11は千葉産須恵器杯である。９は他のものに比べてやや小型である。12 〜 14は土師器甕の底部である。14は底部に「×」の線刻をもつ。カマドから出土し、カマド廃絶時の祭祀具としての利用が想定できる。15 〜 17は土師器甕である。15は口縁部をつまみあげ、胴部を厚さ0.3cmと薄く仕上げる。18、19は土師器小型甕である。20、21は千葉産須恵器甕である。22、23は千葉産須恵器甑である。24は千葉産須恵器羽釜で、胴部に平行叩きを施した後、粘土帯を貼り付けロクロにより鍔部を整形する。25 〜 27は鉄釘で、カマド焼土付近から出土し、釘によって結

合された容器の埋納を示唆するが、焼土をふるいにかけたものの、遺物は出土しなかった。1、9、12、21が床面直上、2、19が床面構築土、5、10、14、16 ～ 18、20 ～ 22、24 ～ 27がカマド、それ以外が覆土からの出土である。

SI003（第 5 図、図版 6）

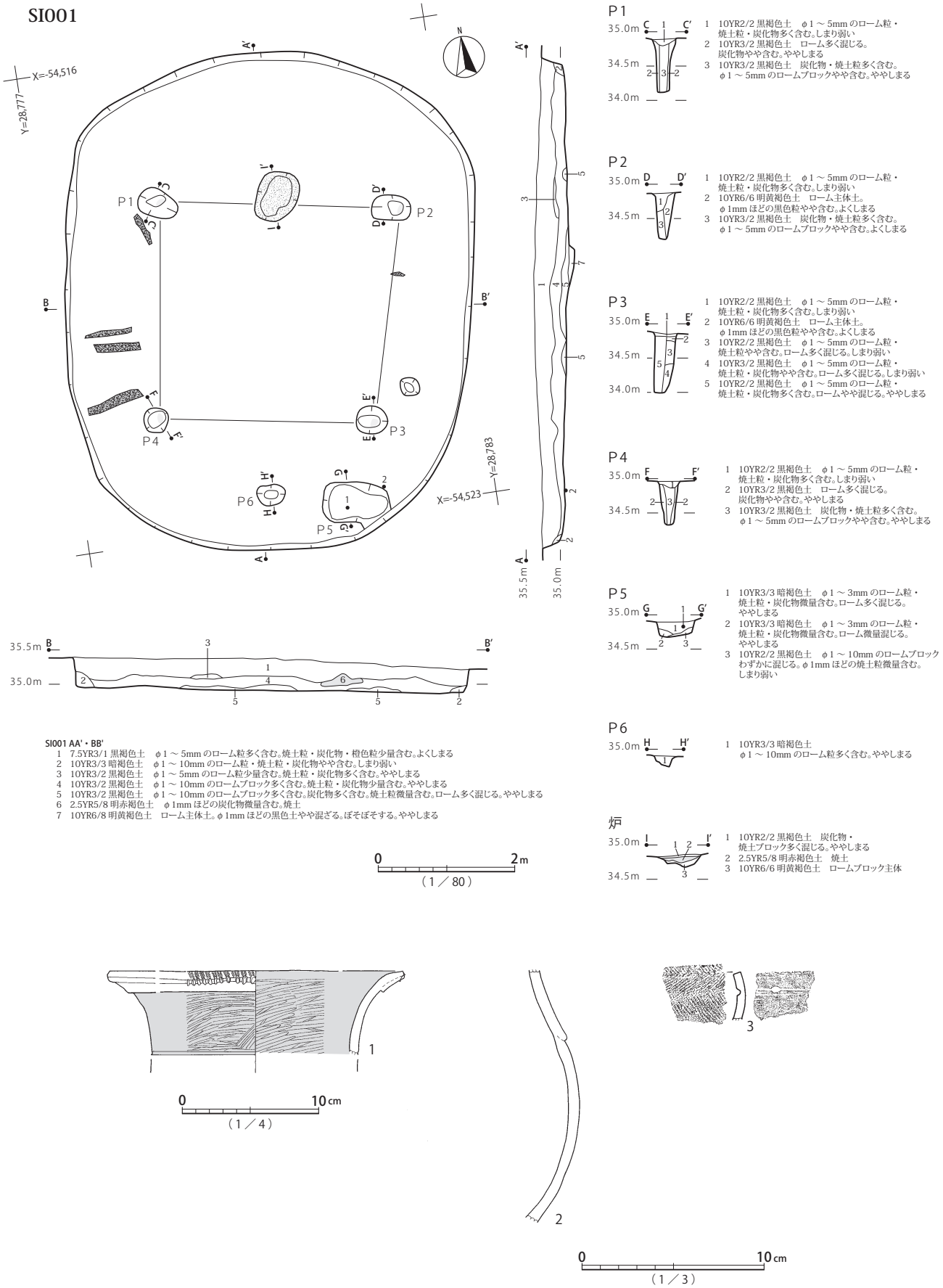
調査区南西側に位置し、形体は正方形で、竪穴の南側がSI002に切られる。規模は長軸推定3.2ｍ×短軸3.05ｍ。確認面からの深さは0.08ｍ、主軸方位はN－15°－Wである。竪穴北辺の中心にカマドをもつ。硬化面は床全面に及ぶ。壁溝はみられない。遺構の残りが悪く覆土は極めて薄い。カマドも袖が残っておらず、焼土面のみ検出した。出土遺物は土師器甕片と縄文土器、弥生土器の細片が混入しており、SI002と大きな時期差はないとみられる。

SI004（第 8・9 図、図版 6・7・14・16）

調査区南西側に位置し、形体は正方形である。規模は長軸3.31ｍ×短軸3.20ｍ、確認面からの深さは0.20ｍ、主軸方位はN－1°－Wである。竪穴北辺の中心にカマドをもつ。硬化面は床全面に及ぶ。壁溝は竪穴をほぼ全周する。主柱穴は注意深く探したものの確認できず、この竪穴に伴う主柱穴はなかったとみられる。P1は深さ0.20ｍで梯子ピットとみられる。覆土はグラウンド造成時の転圧により非常に締まっていた。ローム混入褐色土を主体とする自然堆積とみられる。カマドからは多くの遺物が出土したが、カマドの右袖は壊れており、構築土の山砂がカマドの南側に散布していた。住居廃絶時における破壊とみられる。出土遺物は1 ～ 3が土師器杯である。いずれもロクロ土師器であるが、1はやや箱型で古手の様相を呈す。4は土師器皿である。5、6は須恵器杯である。5は永田・不入窯Ⅳ期のもので、底部のみ残存する。破損面はすべて摩耗しており、二次的な利用が推察される。6は千葉産須恵器杯である。7 ～ 8は土師器甕である。9は土師器小型甕、10は武蔵型の土師器小型甕である。定型化した逆コ字状口縁をもつ。11、12は千葉産須恵器甕、13は千葉産須恵器甑、14は千葉産須恵器広口壺である。15は竪穴建物の壁材とみられる土製品で、植物質の繊維圧痕がみられる。16は鉄鏃茎である。9が床面直上、1、6、11がカマド、5がP1上層、それ以外が覆土からの出土である。

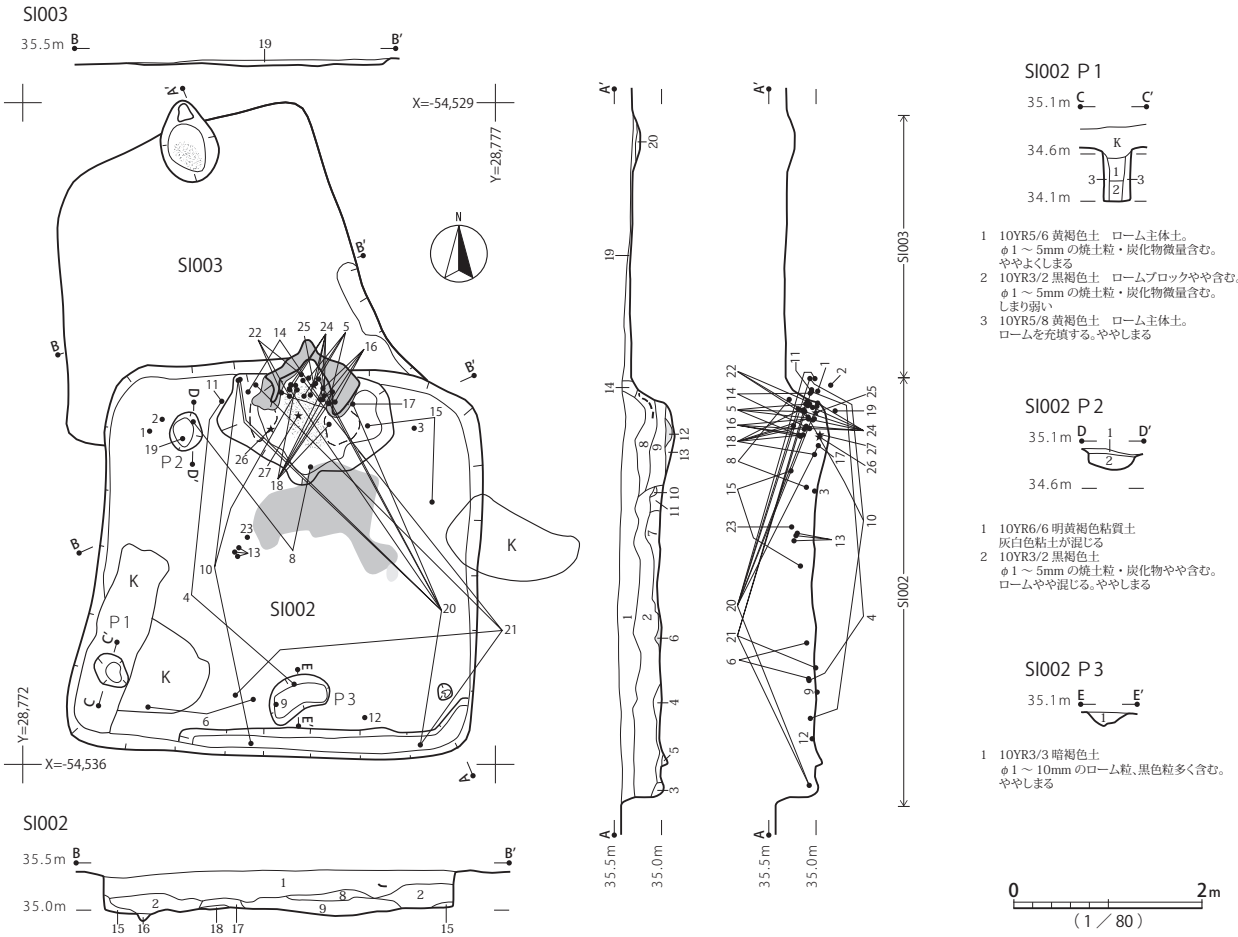
SI005（第 10 図、図版 7・14・16）

調査区中央に位置し、形体は正方形である。規模は長軸3.05ｍ×短軸2.21ｍ、確認面からの深さは0.16ｍ、主軸方位はN－13°－Eである。竪穴北辺の中心にカマドをもつ。硬化面は床全面に及び、床面中央南側の一部は確認調査時のサブトレンチで断ち割られている。壁溝は西側のみみられる。P1、P2は主柱穴であろうが、P2に対応する東側では確認できなかった。P1は深さ0.24ｍ、P2は深さ0.20ｍである。覆土はローム混入黒褐色土を主体とする自然堆積とみられる。カマドの袖は流れており残存状態は悪かったが、左袖の痕跡が確認できた。カマドの南側には、カマド構築土が薄く広がる。出土遺物は1が土師器杯底部である。2は土師器甕で非常に薄く倒卵形を呈す。1は床面構築土、2はカマドから出土した。



第4図　SI001 平面図・断面図・遺物実測図

SI002・SI003



SI002・SI003 AA' BB'

1 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒多く含む。
焼土粒・炭化物やや多く含む。非常によくしまる
2 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 20mm のロームブロック多く含む。
焼土粒・炭化物・灰白色シルト粒やや多く含む。よくしまる
3 10YR7/6 明黄褐色土　φ1 ～ 5mm のロームブロック多く含む。炭化物やや含む。ややしまる
4 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 10mm のロームブロックやや含む。焼土粒・炭化物やや含む。しまり弱い
5 10YR7/6 明黄褐色土　ローム主体土。φ1 ～ 10mm のロームブロック・暗褐色土粒やや含む。よくしまる
6 2.5YR5/8 明褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒やや含む。ややしまる。焼土
7 7.5YR7/2 明褐灰色シルト　φ1 ～ 5mm のローム粒・橙色粒やや含む。よくしまる（旧カマド構築土）
8 10YR4/2 灰黄褐色土　φ1 ～ 10mm の明褐灰色シルトブロック・ロームブロック、φ1 ～ 5mm の
焼土粒・炭化物多く含む。よくしまる
9 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物多く含む。焼けたカマド構築土ブロック微量含む。よくしまる
10 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒・炭化物多く含む。灰黄褐色シルト多く含む。よくしまる
11 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒多く含む。炭化物微量含む。よくしまる
12 5YR4/6 赤褐色土　焼土ブロック主体。炭化物多く含む。ややしまる。焼土
13 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒微量含む。ロームやや混じる。ややしまる
14 7.5YR6/2 灰褐色砂質シルト　φ1 ～ 5mm のローム粒・橙色粒・焼土粒・炭化物多く含む。非常によくしまる
15 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒微量含む。ややしまる
16 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 20mm のロームブロック多く含む。炭化物微量含む。よくしまる
17 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒・炭化物多く含む。ややしまる
18 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 10mm のロームブロック多く含む。焼土粒・炭化物微量含む。ややしまる
19 10YR3/1 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒微量含む。よくしまる
20 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 10mm の焼土ブロックやや含む。炭化物・ロームやや混じる。ややしまる

SI002 P1

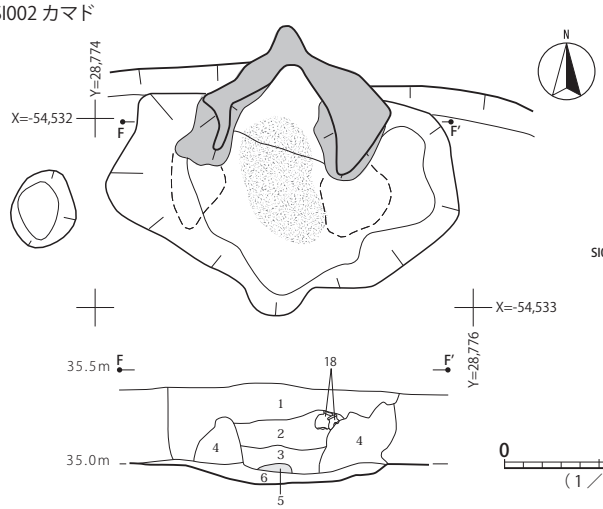
1 10YR5/6 黄褐色土　ローム主体土。
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物微量含む。
ややよくしまる
2 10YR3/2 黒褐色土　ロームブロックやや含む。
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物微量含む。
しまり弱い
3 10YR5/8 黄褐色土　ローム主体土。
ロームを充填する。ややしまる

SI002 P2

1 10YR6/6 明黄褐色粘質土
灰白色粘土が混じる
2 10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物やや含む。
ロームやや混じる。ややしまる

SI002 P3

1 10YR3/3 暗褐色土
φ1 ～ 10mm のローム粒、黒色粒多く含む。
ややしまる

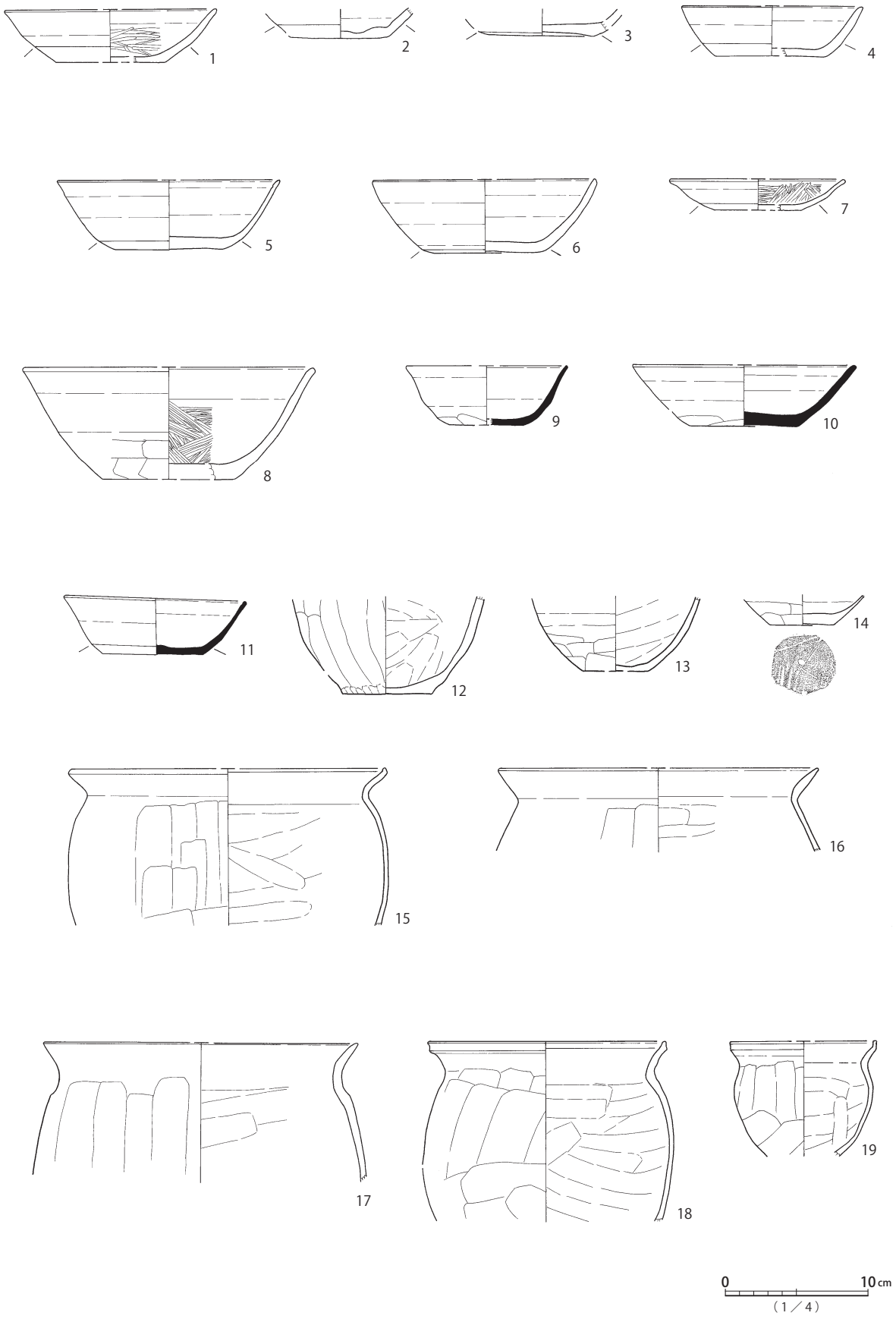


SI002 カマド

1 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒多く含む。非常によくしまる
2 10YR4/2 灰黄褐色土　φ1 ～ 10mm の明褐灰色シルトブロック・ロームブロック、
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物多く含む。よくしまる
3 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物多く含む。
焼けたカマド構築土ブロック微量含む。よくしまる
4 2.5YR6/2 灰黄色砂質シルト　φ1 ～ 10mm の焼土ブロック・橙色ブロック・ローム粒多く含む。
よくしまる
5 5YR4/6 赤褐色土　焼土ブロック主体。炭化物多く含む。ややしまる。焼土
6 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒微量含む。ロームやや混じる。ややしまる

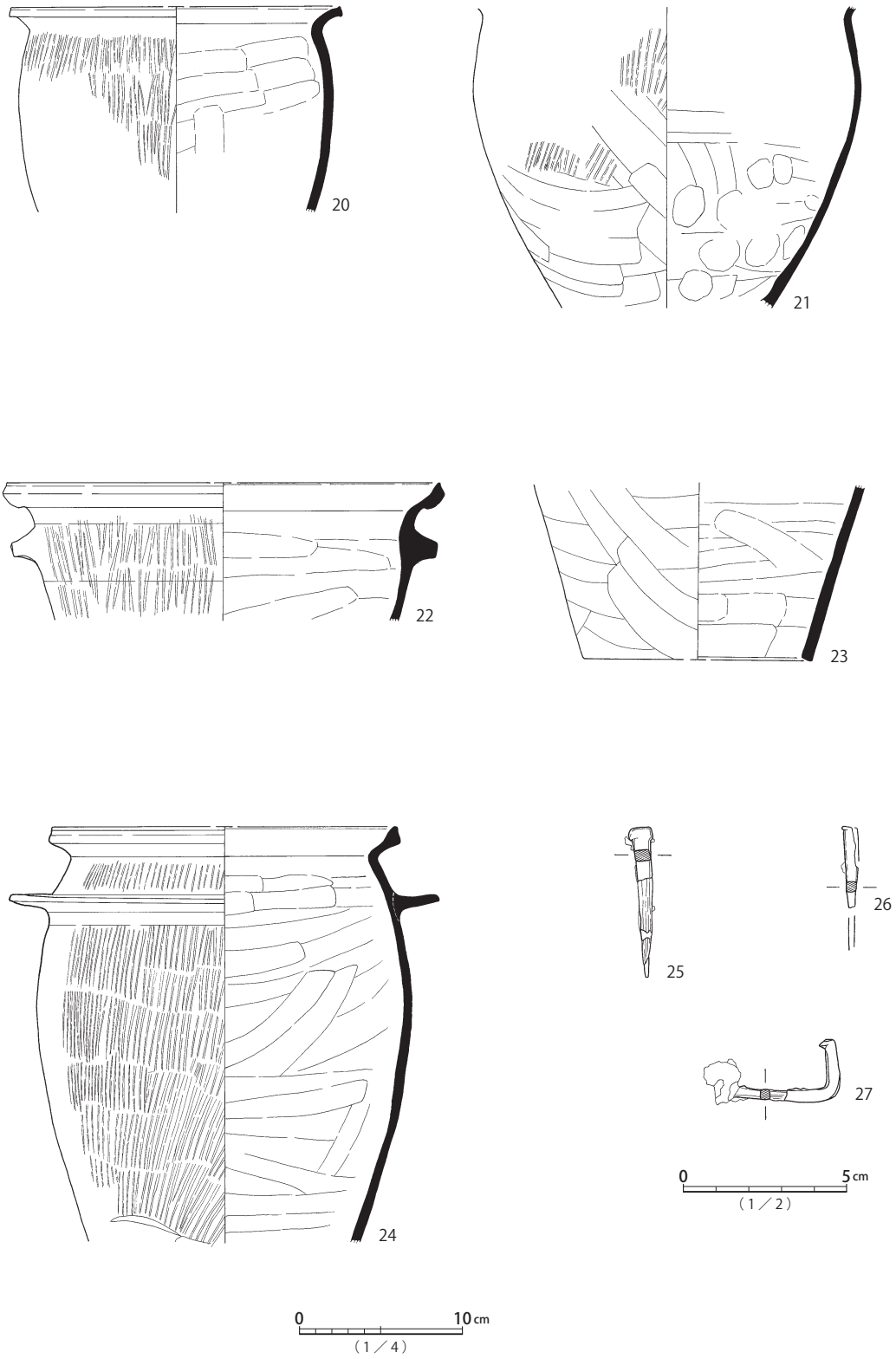
第5図　SI002 平面図・断面図、SI003 平面図・断面図

SI002



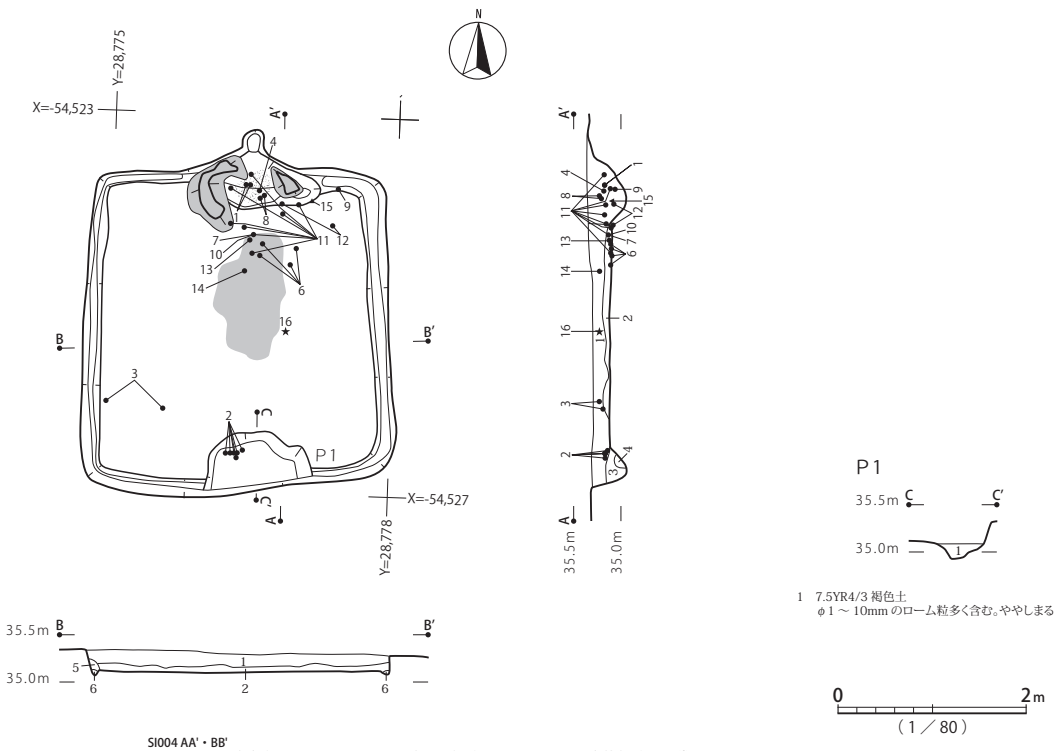
第6図　SI002 遺物実測図(1)

SI002

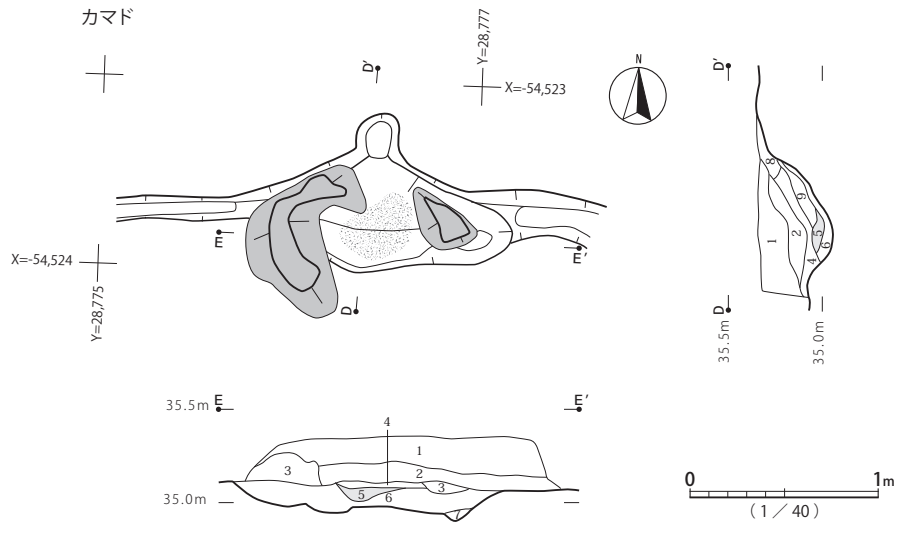


第7図　SI002 遺物実測図(2)

SI004



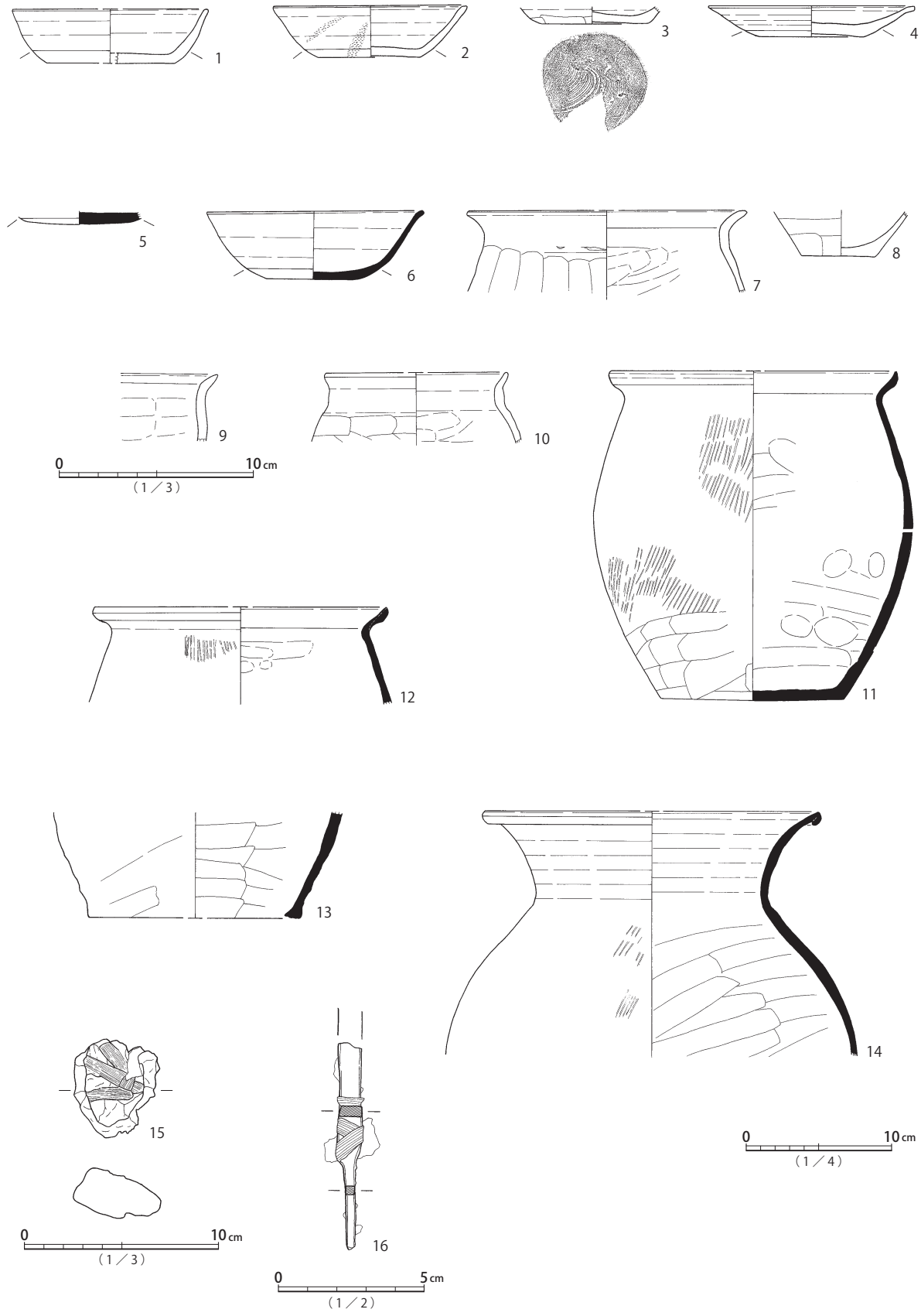
SI004 AA'・BB'
1　7.5YR4/3 褐色土　φ1 ～ 20mm のロームブロック多く含む。φ1 ～ 2mm の黒色粒多く含む。非常によくしまる
2　7.5YR4/3 褐色土　φ1 ～ 7mm のローム粒多く含む。φ1mm ほどの褐色粒多く含む。よくしまる
3　7.5YR4/3 褐色土　φ1 ～ 10mm のロームブロック多く含む。φ1 ～ 8mm の焼土ブロック・炭化物微量含む。よくしまる
4　10YR6/6 明黄褐色土　ローム主体土。φ1 ～ 10mm の暗黄褐色土ブロック微量含む。よくしまる
5　10YR5/6 黄褐色土　φ1 ～ 3mm の黒色粒・焼土粒微量含む。よくしまる
6　7.5YR4/3 褐色土　φ1 ～ 10mm のローム粒多く含む。ローム多く混じる。ややしまる



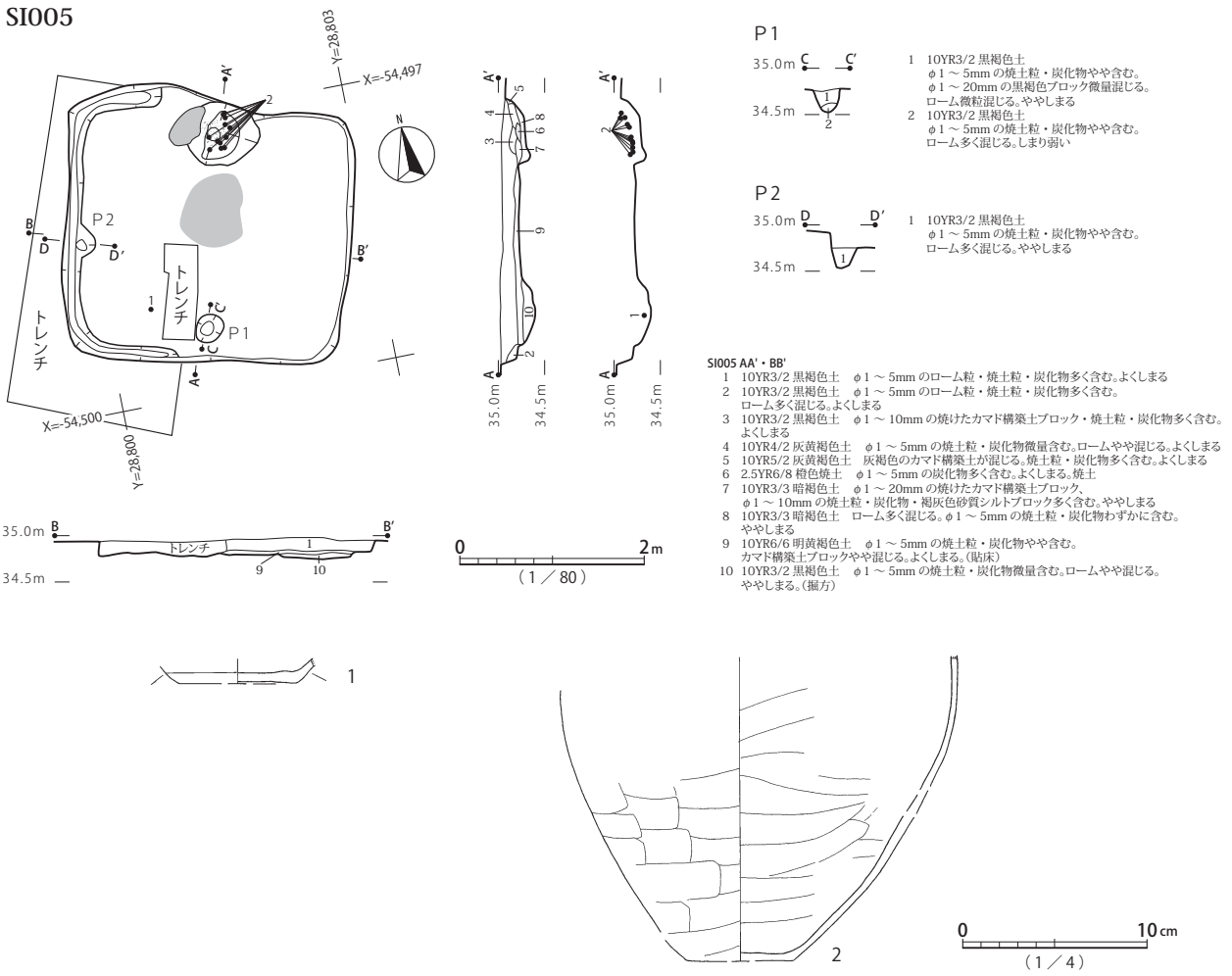
SI004 カマド DD'・EE'
1　10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 10mm のローム粒・焼土粒・炭化物多く含む。よくしまる
2　10YR5/2 灰黄褐色シルト　φ1 ～ 20mm の焼土粒、φ1 ～ 10mm のローム粒・炭化物やや多く含む。
　φ20mm ほどの黄橙砂質土ブロックやや含む。よくしまる
3　10YR6/2 灰黄褐色シルト　φ1 ～ 10mm の焼土粒・炭化物微量含む。非常によくしまる
4　10YR4/3 にぶい黄褐色土　φ40mm ほどの焼土ブロック混入。φ1 ～ 5mm のローム粒・炭化物やや多く含む。よくしまる
5　2.5YR4/6 赤褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・炭化物やや多く含む。よくしまる。焼土
6　10YR3/2 黒褐色土　φ1mm ほどの焼土粒・炭化物微量含む。ローム多く混じる。よくしまる
7　10YR5/6 黄褐色土　φ1mm ほどの褐色粒微量含む。ローム多く混じる。よくしまる
8　2.5YR4/6 赤褐色土　φ1 ～ 10mm の焼土粒非常に多く含む。炭化物・ローム粒多く含む。よくしまる
9　10YR6/2 灰黄褐色シルト　φ1 ～ 10mm のローム粒・焼土粒・炭化物多く含む。よくしまる

第8図　SI004 平面図・断面図

SI004



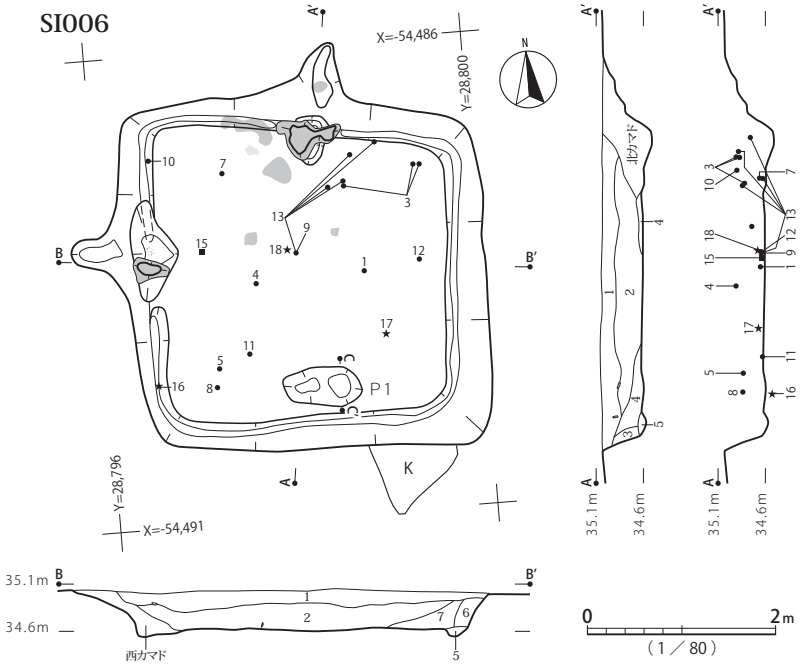
第9図　SI004 遺物実測図



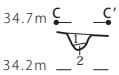
第10図　SI005 平面図・断面図・遺物実測図

SI006（第 11 ～ 13 図、図版 7・8・14・15・17）

調査区中央北西側に位置し、形体は正方形である。規模は長軸3.85ｍ×短軸3.55ｍ、確認面からの深さは0.44ｍ、主軸方位はN−6°−Eである。竪穴北辺と西辺の中心にカマドをもつ。西カマドの掘方にわずかに壁溝の痕跡がみられるため、北カマドから西カマドへ作り変えていることがわかる。硬化面は床全面に及ぶ。壁溝は竪穴をほぼ全周する。主柱穴は注意深く探したものの確認できず、この竪穴に伴う主柱穴はなかったとみられる。P1は深さ0.20ｍで梯子ピットとみられる。覆土はローム混入黒褐色土を主体とする自然堆積とみられる。カマドからは多くの遺物が出土したが、カマドの袖は壊れており残存状況は悪い。住居廃絶時における破壊とみられる。出土遺物は1、2が土師器杯である。いずれもロクロ土師器で墨書土器である。1は底部に則天文字「垂」、2は判読不能である。3は土師器椀である。4は土師器甕で口縁をつまみ上げる。5は土師器小型甕、6は土師器台付甕である。7 ～ 9は千葉産須恵器甕、10は東海産須恵器甕胴部片、11は東海産須恵器瓶胴部片である。12は原始灰釉陶器瓶胴部片、13は千葉産須恵器甑である。14は支脚で北カマド焼土をふるいにかけた際に発見した。15は礫である。16、17は刀子、18は鉄鎌である。12が床面直上、16は壁溝覆土、14はカマド、それ以外は覆土からの出土である。



P1

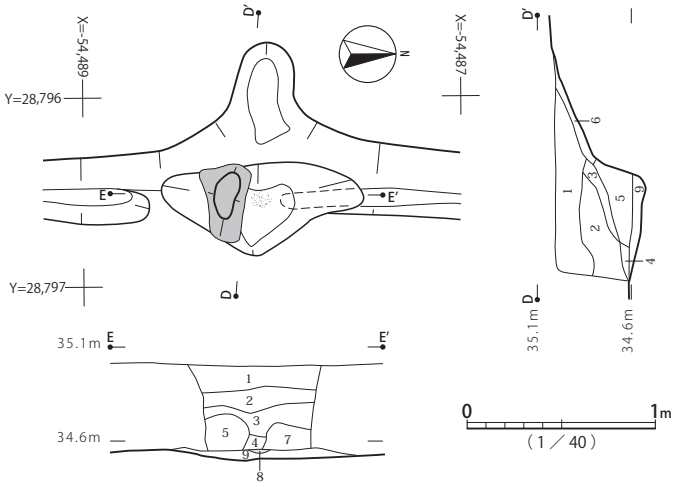


1 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物多く含む。
ローム ブロック多く含む。ぼそぼそする。ややしまる
2 10YR6/6 明黄褐色土　φ1 ～ 5mm の粘土粒・炭化物微量含む。
ローム多く混じる。ややしまる

SI006 AA′・BB′

1 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物多く含む。ややしまる
2 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 10mm の焼土ブロック微量含む。
焼土粒・炭化物多く含む。よくしまる
3 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 10mm の焼土ブロック微量含む。
焼土粒・炭化物多く含む。ローム多く混じる。よくしまる
4 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物ややや含む。
ローム多く混じる。ややしまる
5 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物多く含む。
ロームブロックやや混じる。ぼそぼそする。ややしまる
6 10YR6/6 明黄褐色土　ローム主体土。
φ1 ～ 5mm の焼土粒微量含む。よくしまる
7 10YR3/1 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒・炭化物微量含む。
よくしまる

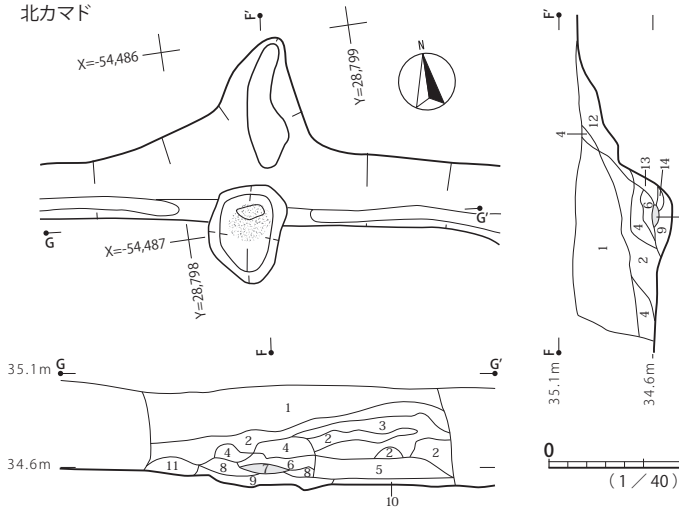
西カマド



SI006 西カマド DD′・EE′

1 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒・炭化物ややや含む。よくしまる
2 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土ブロック・炭化物ややや含む。ややしまる
3 10YR3/2 黒褐色土　灰白色のカマド構築土粒多く含む。焼土ブロック・炭化物ややや含む。よくしまる
4 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 10mm の炭化物、φ1 ～ 5mm のローム粒・炭化物ややや含む。
ロームやや混じる。ややしまる
5 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト　φ1 ～ 10mm の焼土ブロックやや混じる。よくしまる
6 10YR3/2 黒褐色土　灰白色のカマド構築土ブロック・焼土ブロック・炭化物多く含む。よくしまる
7 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 10mm の焼土粒・炭化物ややや含む。
灰黄褐色シルト、焼けたカマド構築土ブロック多く混じる。ややしまる
8 10YR5/8 明赤褐色土　φ1 ～ 10mm の炭化物多く含む。しまり弱い。焼土
9 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物粒・焼土粒ややや含む。ローム多く混じる。しまり弱い

北カマド

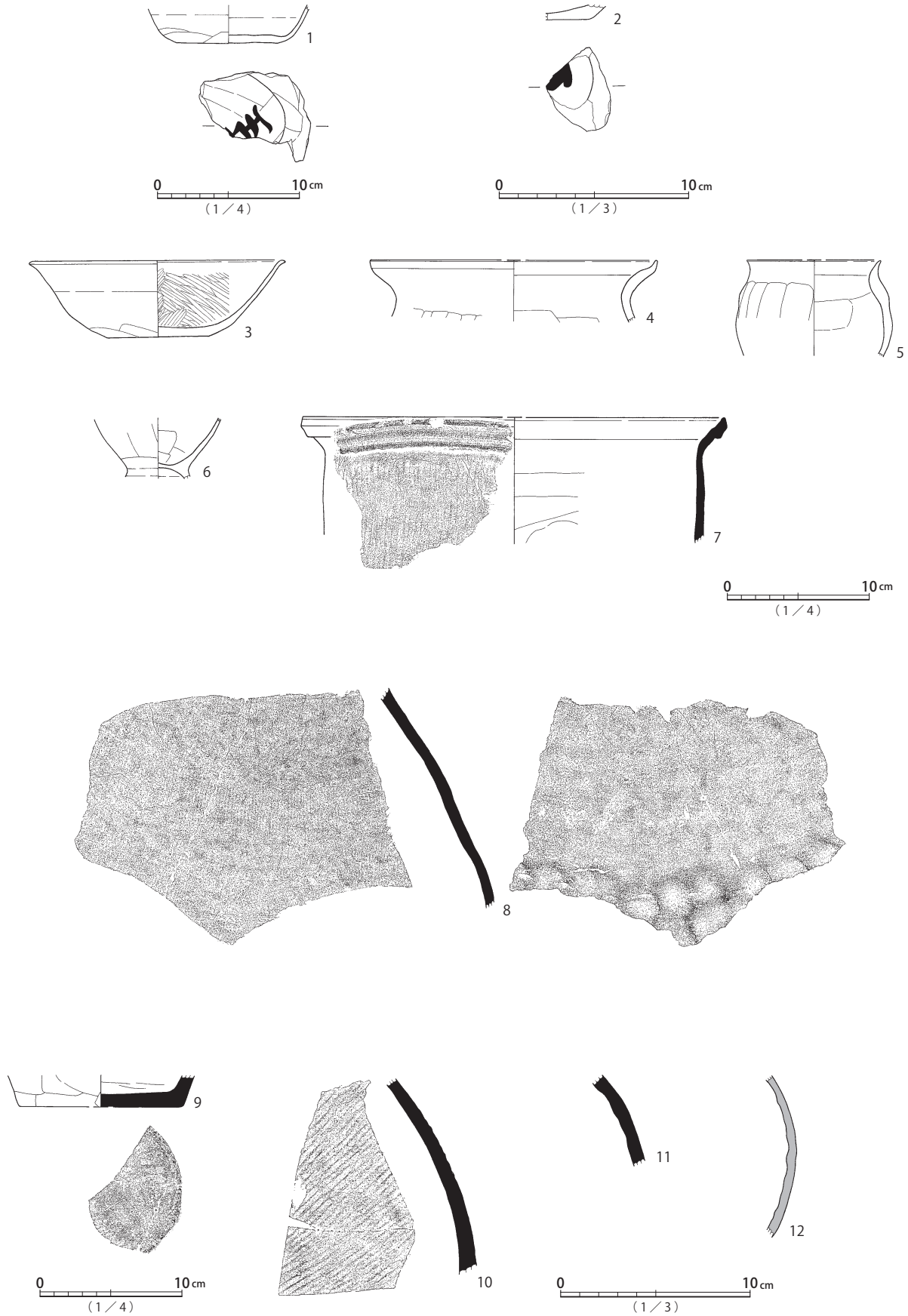


SI006 北カマド FF′・GG′

1 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒、焼土粒、炭化物多く含む。よくしまる
2 10YR8/2 灰白色砂質シルト　φ1 ～ 10mm のローム粒、橙色粒、炭化物多く含む。
黒褐色土多く混じる。よくしまる
3 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物、焼土粒多く含む。
ロームブロック微量、カマド構築土ブロック多く混じる。よくしまる
4 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト　φ1 ～ 10mm の焼土粒ややや含む。よくしまる
5 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 10mm の炭化物、焼土粒多く含む。
焼けたカマド構築土ブロック、灰黄褐色シルト多く含む。ややしまる
6 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物、焼土粒多く含む。
φ10mm ほどの焼けたカマド構築土ブロックやや含む。ややしまる
7 10YR5/8 明赤褐色土　φ1 ～ 10mm の炭化物多く含む。ややしまる。焼土
8 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物、焼土粒多く含む。しまり弱い
9 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物、焼土粒微量含む。ローム多く混じる。しまり弱い
10 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物多く含む。ロームやや混じる。ぼそぼそする。ややしまる
11 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト　φ1 ～ 10mm の焼土粒、焼けたカマド構築土ブロックやや混じる。
よくしまる
12 10YR4/2 灰黄褐色土　φ1 ～ 10mm の焼土ブロック、焼けたカマド構築土ブロック、炭化物多く含む。
よくしまる
13 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物、焼土粒多く含む。
φ1 ～ 5mm ロームブロック微量、カマド構築土ブロック多く混じる。よくしまる
14 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物、焼土粒、カマド構築土ブロックやや含む。ややしまる

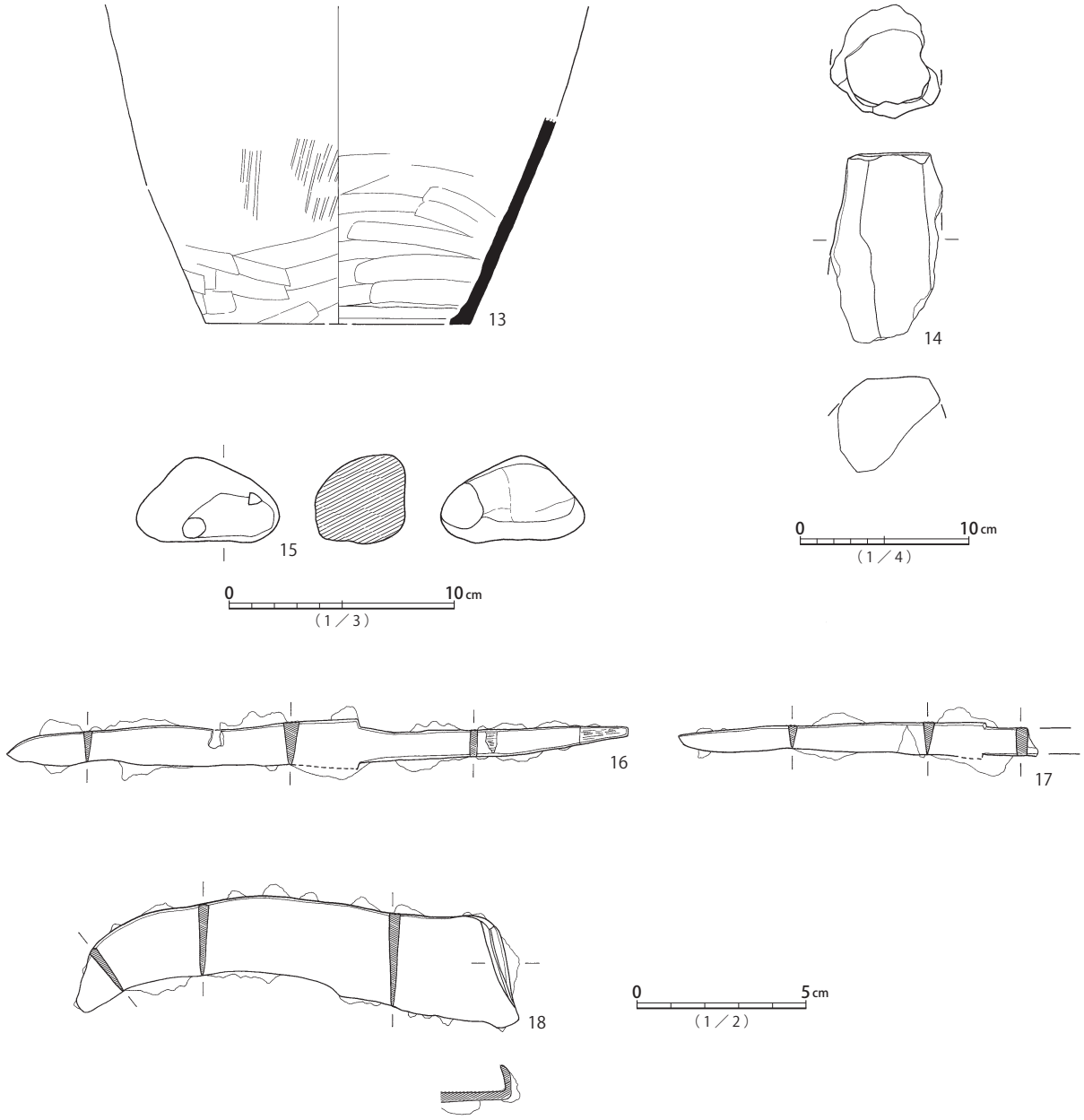
第11図　SI006 平面図・断面図

SI006



第12図　SI006 遺物実測図(1)

SI006

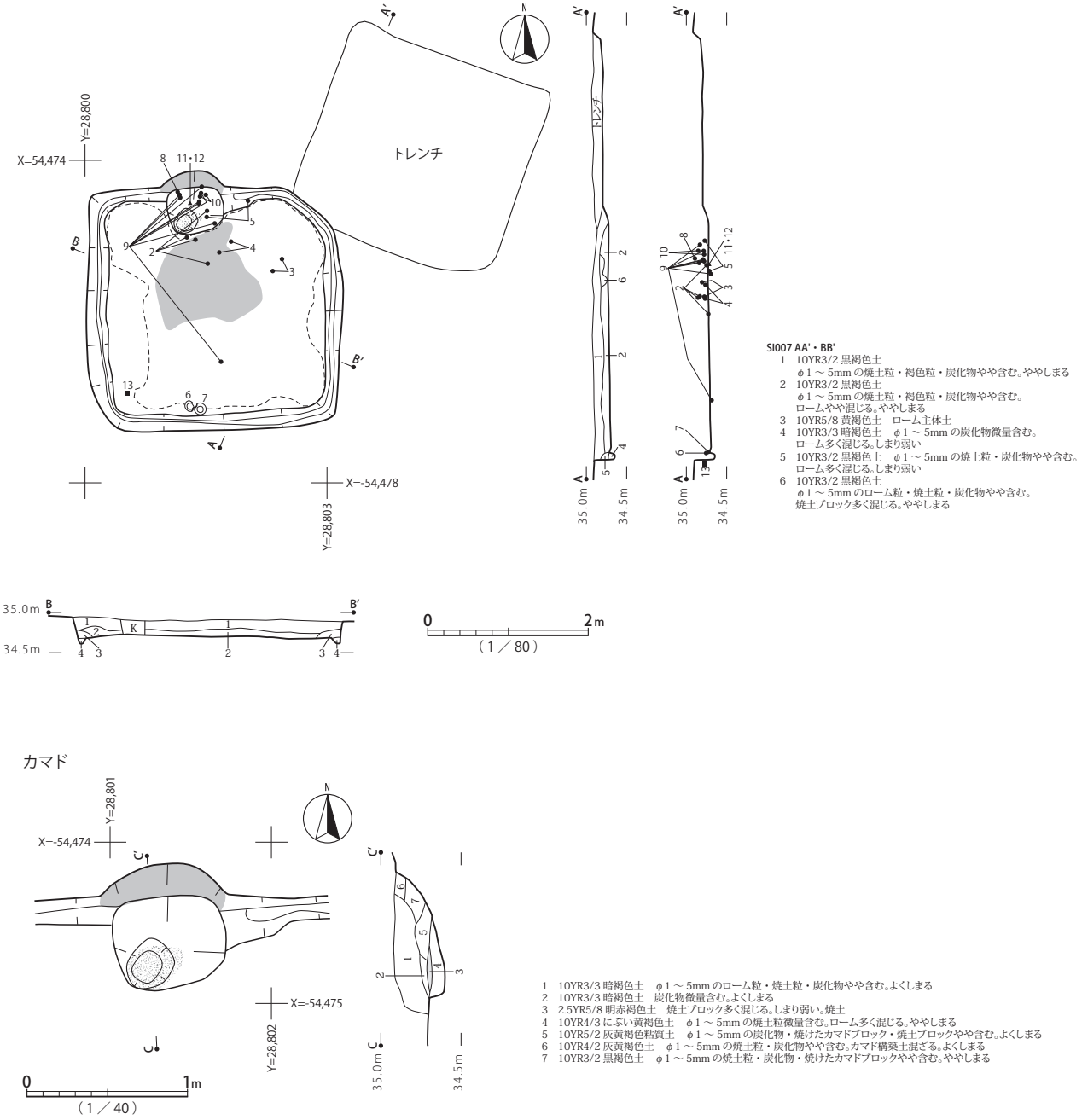


第13図　SI006 遺物実測図(2)

SI007（第 14・15 図、図版 8・9・15・17・18）

調査区北西側に位置し、形体は正方形である。規模は長軸3.15ｍ×短軸3.05ｍ、確認面からの深さは0.20ｍ、主軸方位はN−2°−Wである。竪穴北辺の中心にカマドをもつ。壁溝は竪穴をほぼ全周する。硬化面はほぼ床全面に及ぶ。主柱穴は持たない。覆土はローム混入黒褐色土を主体とする自然堆積とみられる。出土遺物は1が土師器杯、2は土師器高台付椀、3は土師器鉢である。いずれもロクロ土師器である。4は土師器甕、5は土師器小型甕である。6、7は千葉産須恵器杯である。竪穴南壁側の床面に並んだ状態で出土した。2点とも口縁部を意図的に打ち欠いている可能性がある。

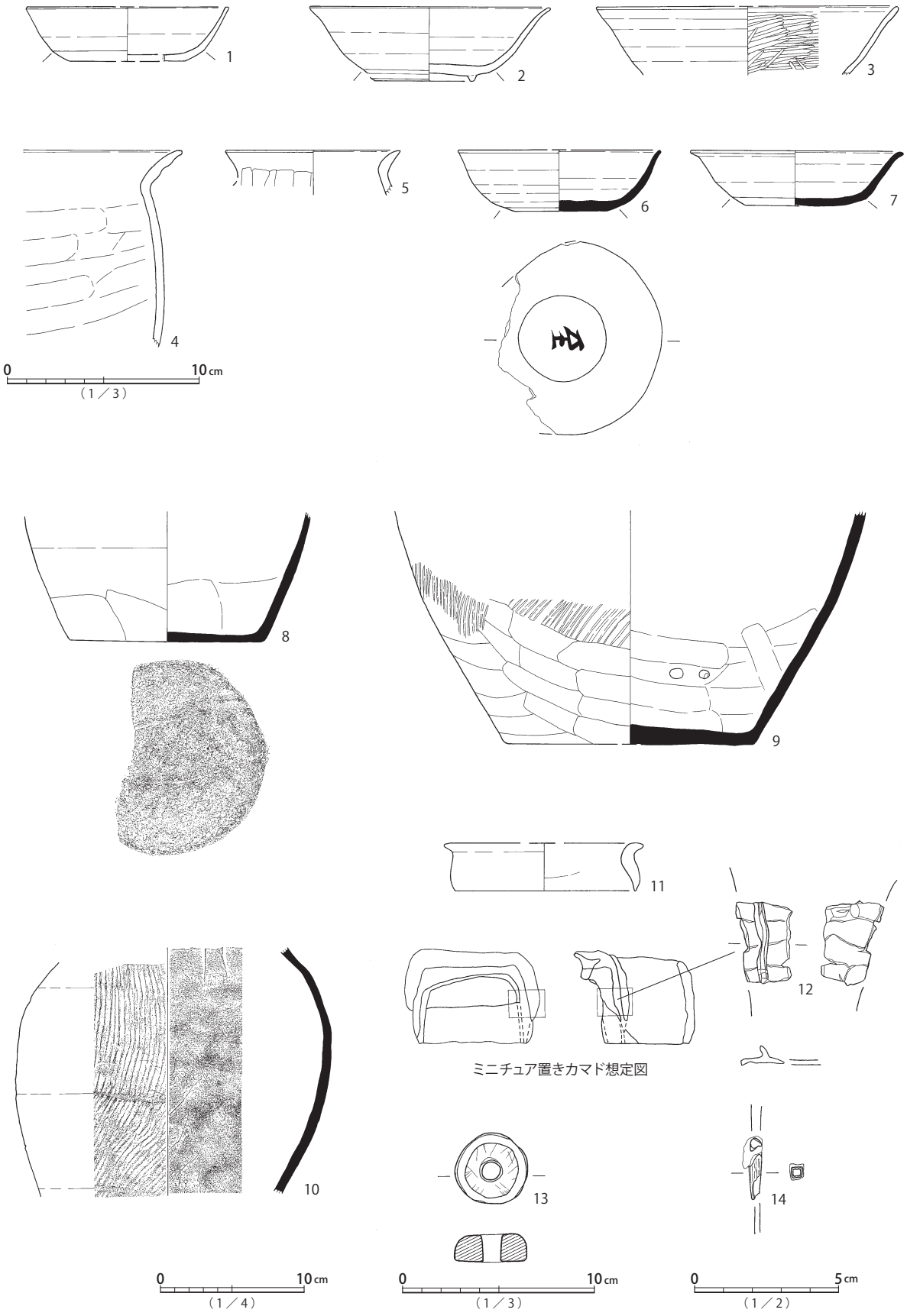
SI007



第14図　SI007 平面図・断面図

住居廃絶時における祭祀とみられる。6は墨書土器で底部に「王」の墨書をもつ。8、9は千葉産須恵器甕で、8の底部に「Z」字状のヘラ記号が確認できる。10は千葉産須恵器広口壺胴部片である。11はミニチュア土器甑である。12はミニチュア土製品である。小片であるが置きカマドの庇部分の可能性がある。11、12はカマド焼土付近で出土した。カマド廃絶時の祭祀具としての利用が想定できる。13は石製紡錘車、14は鉄釘である。6、7、9、13は床面直上、1、2、5、8 ～ 12はカマド、それ以外は覆土からの出土である。

SI007



第15図　SI007 遺物実測図

古墳

SM001（第 16・17 図、図版 9・18）

調査区南側に位置し、形体は正方形の終末期方墳である。墳丘は残っていない。規模は方台部長軸12.50ｍ×短軸12.15ｍ、主軸方位はＮ−22°−Ｗである。周溝幅は1.40ｍ～ 2.20ｍ、確認面からの深さは0.65ｍ～ 0.95ｍである。周溝隅は直角である。埋葬施設は確認できず、墳丘盛土内で完結する規模のものであったとみられる。周溝は逆台形を呈す。覆土はローム混入黒褐色土を主体とする自然堆積とみられる。出土遺物は１が千葉産須恵器杯である。２は原始灰釉陶器瓶胴部片である。３は丸瓦で凸面と端面破損面を砥石に転用している。いずれも周溝覆土上層から出土した。周溝底部から遺物が出土せず、遺構の構築年代は不明確であるが、古墳時代終末期から奈良時代前半と想定したい。

SM002（第 18 図、図版 10・18）

調査区北東側に位置し、形体は正方形の終末期方墳である。墳丘は残っていない。規模は方台部長軸7.50ｍ×短軸7.25ｍ、主軸方位はＮ−15°−Ｗである。周溝幅は1.30ｍ～ 2.05ｍ、確認面からの深さは0.50ｍ～ 0.55ｍである。周溝隅は隅丸である。埋葬施設は確認できず、墳丘盛土内で完結する規模のものであったとみられる。周溝は逆台形を呈す。覆土はローム混入暗褐色土を主体とする自然堆積とみられる。周溝掘方上層に硬化面がみられる。出土遺物は１～３が千葉産須恵器甕である。４は灰釉陶器瓶胴部片である。いずれも周溝覆土上層から出土した。周溝底部から遺物が出土せず、遺構の構築年代は不明確であるが、古墳時代終末期から奈良時代前半と想定したい。

土坑

SK001（第 19 図、図版 10）

調査区中央南東側に位置し、形体は長円形である。規模は長軸2.11ｍ×短軸1.01ｍ、確認面からの深さは1.24ｍ、長軸を主軸とし、方位はＮ−68°−Ｅである。底部の短軸幅0.12ｍと非常に狭くなっており、陥し穴とみられる。覆土はローム混入黒褐色土を主体とする自然堆積である。遺物は出土していないが縄文時代早期の遺構とみられる。

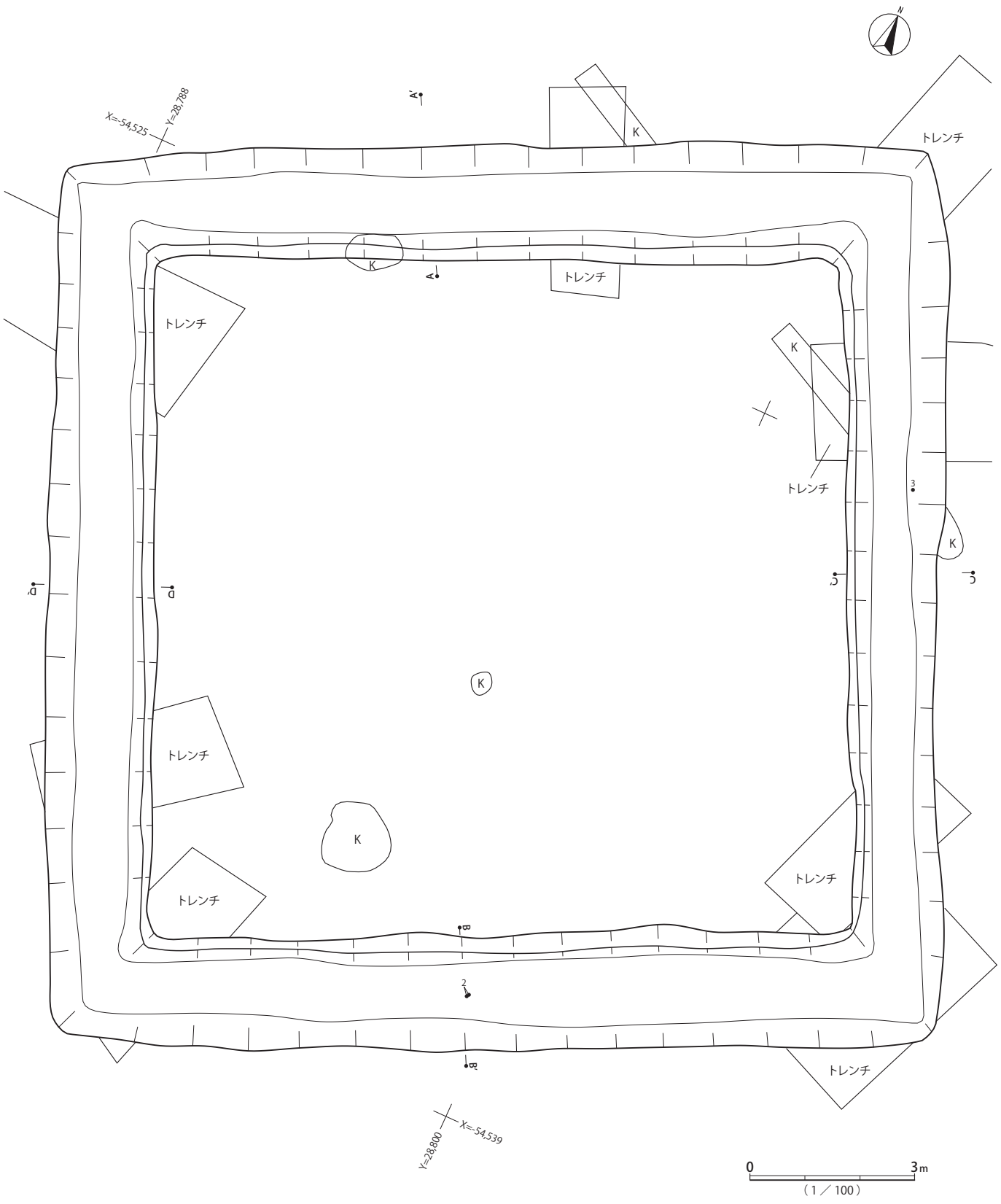
SK002（第 19 図、図版 11）

調査区中央南東側に位置し、形体は長円形である。規模は長軸2.11ｍ×短軸0.91ｍ、確認面からの深さは0.76ｍ、長軸を主軸とし、方位はＮ−20°−Ｅである。底部に径0.52ｍのピットを有し、陥し穴とみられる。覆土は６層まではローム混入暗褐色土を主体とする自然堆積である。４層に厚い焼土がみられ、その上層は自然堆積である。遺物は出土していないが縄文時代早期の遺構とみられる。

SK003（第 19 図、図版 11・18）

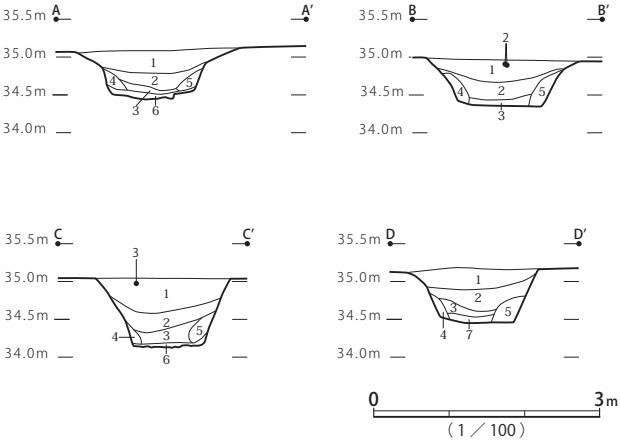
調査区中央南側に位置し、形体は長円形である。規模は長軸1.31ｍ×短軸0.91ｍ、確認面からの深さは0.64ｍ、長軸を主軸とし、方位はＮ−6°−Ｅである。覆土はローム混入暗褐色土を主体とする自然堆積である。出土遺物は１が縄文土器鉢胴部片である。撚糸文をもつ縄文時代早期の土器で、覆土中層からの出土である。

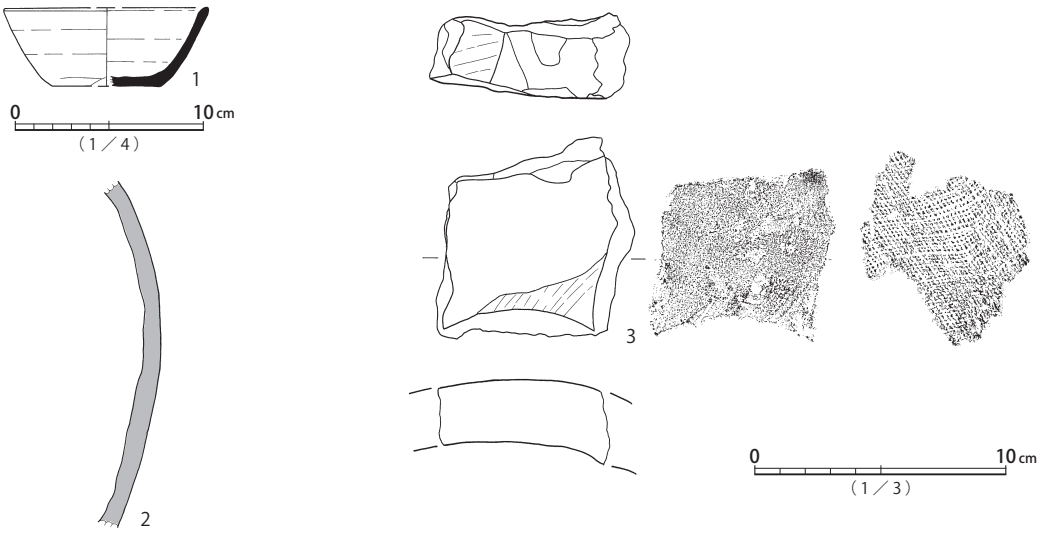
SM001



第16図　SM001 平面図

SM001





第17図　SM001 断面図・遺物実測図

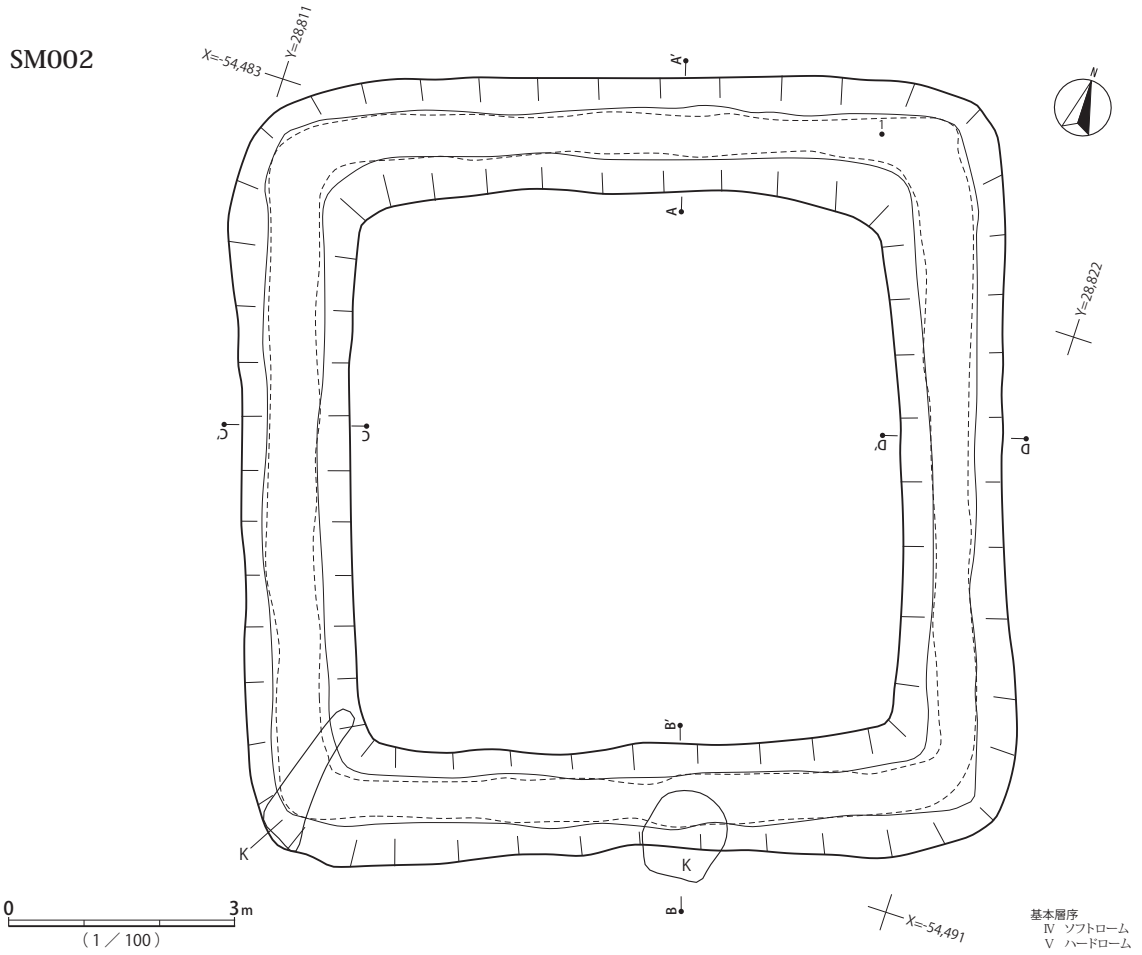
SK004（第 19 図、図版 11・18）

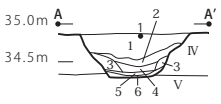
調査区中央南側に位置し、形体は楕円形である。規模は長軸1.15ｍ×短軸0.65ｍ、確認面からの深さは0.28ｍ、長軸を主軸とし、方位はN－38°－Eである。覆土はローム混入暗褐色土を主体とする自然堆積である。出土遺物は1が縄文土器鉢胴部片で、覆土上層からの出土である。加曽利B式の精製土器とみられる。

SK005（第 19 図、図版 3・11・12）

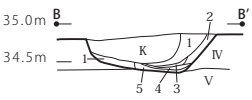
調査区北東側に位置し、形体は長円形である。規模は長軸3.25ｍ×短軸1.85ｍ、確認面からの深さは0.76ｍ、長軸を主軸とし、方位はN－35°－Eである。底面の壁側には12基のピットが並ぶ。類例は諏訪台古墳群SM1054第2主体部、SK209、SK302があり（北見ほか2015）、土坑墓であることが考えられるが、木棺痕跡は明瞭でない。出土遺物はまったくなく、時期は不明確であるが、古墳時代終末期から奈良時代前半と想定したい。

SM002

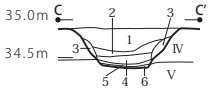




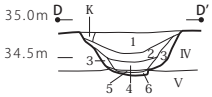
1 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒多く含む。よくしまる
2 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒・炭化物やや含む。しまり弱い
3 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物やや含む。ローム多く混じる。しまり弱い
4 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒やや含む。焼土粒・炭化物多く含む。ローム多く混じる。ややしまる
5 10YR4/2 灰黄褐色粘質土　ロームやや混じる。非常によくしまる。(硬化面)
6 10YR3/3 暗褐色土　ローム多く混じる。よくしまる



1 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物多く含む。よくしまる
2 10YR6/8 明黄褐色土　ローム主体土。φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物多く含む。暗褐色土が混じる。ややしまる
3 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物多く含む。φ1 ～ 10mm のロームブロック微量含む。ローム多く混じる。しまり弱い
4 10YR4/2 灰黄褐色粘質土　ロームやや混じる。非常によくしまる。(硬化面)
5 10YR3/3 暗褐色土　ローム多く混じる。よくしまる



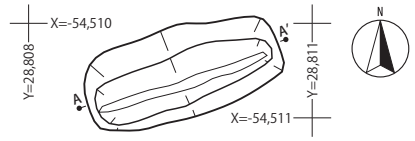
1 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒やや含む。よくしまる
2 10YR3/3 暗褐色土　φ1mm ほどのローム粒・焼土粒・炭化物微量含む。しまり弱い
3 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒微量含む。ロームやや混じる。ややしまる
4 10YR3/4 暗褐色土　φ1mm ほどの褐色粒やや含む。10YR6/8 明黄褐色のローム多く混じる。しまり弱い
5 10YR4/2 灰黄褐色粘質土　ロームやや混じる。非常によくしまる。粘性つよい。(硬化面)
6 10YR3/3 暗褐色土　ローム多く混じる。よくしまる

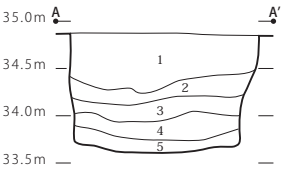


1 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒微量含む。よくしまる
2 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒微量含む。しまり弱い
3 10YR3/4 暗褐色土　φ1mm ほどの褐色粒やや含む。明黄褐色のローム多く混じる。しまり弱い
4 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒・炭化物やや含む。ややしまる
5 10YR4/2 灰黄褐色粘質土　ロームやや混じる。非常によくしまる。粘性つよい。(硬化面)
6 10YR3/3 暗褐色土　ローム多く混じる。よくしまる

第18図　SM002 平面図・断面図・遺物実測図

SK001

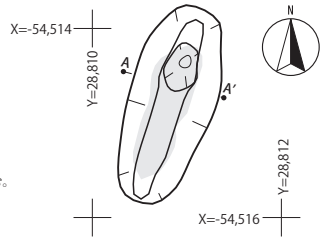


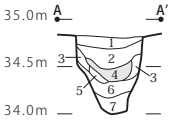


1 10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒微量含む。
よくしまる
2 10YR3/3 暗褐色土
ローム多く混じる。ややしまる
3 10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物微量含む。
ロームブ多く混じる。ややしまる
4 10YR5/6 黄褐色土
φ1 ～ 5mm の炭化物微量含む。
ぼそぼそした小ロームブロック主体。しまり弱い
5 10YR4/4 褐色土　φ1 ～ 5mm のロームブロック粒
多く混じる。ぼそぼそしている。ややしまる

0　2m
（1／80）

SK002

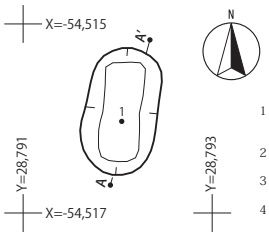


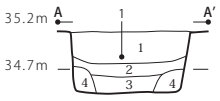


1 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒・
炭化物微量含む。しまり弱い
2 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒・
炭化物やや含む。よくしまる
3 10YR4/2 灰黄褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物やや含む。
ローム多く混じる。しまり弱い
4 2.5YR5/8 明赤褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物多く含む。
ややしまる。焼土
5 10YR3/1 黒褐色土　φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物やや含む。
ロームやや混じる。しまり弱い
6 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の焼土粒微量含む。
ロームやや混じる。しまり弱い
7 10YR3/2 黒褐色土　φ1 ～ 10mm のロームブロック微量含む。
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物微量含む。ロームやや混じる。
よくしまる

0　2m
（1／80）

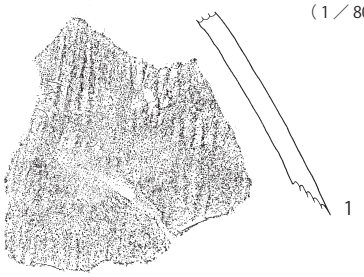
SK003





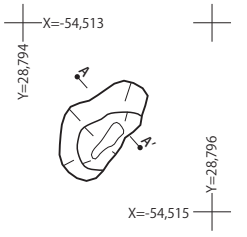
1 10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物やや含む。
ローム多く混じり、もやもやした感じ。よくしまる
2 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の炭化物やや含む。
ローム粒多く含む。よくしまる
3 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の褐色粒多く含む。
ローム多く混じり、もやもやする。ややしまる
4 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm の橙色粒やや含む。
ローム多く混じる。しまり弱い

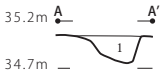
0　2m
（1／80）



0　10cm
（1／3）

SK004



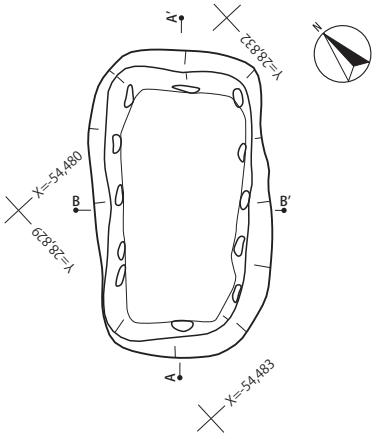


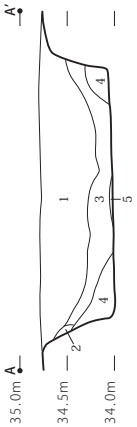
1 10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 10mm の炭化物、ローム粒やや含む。
ややしまる

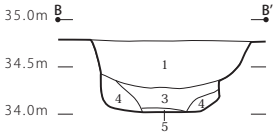
0　2m
（1／80）

0　10cm
（1／3）

SK005





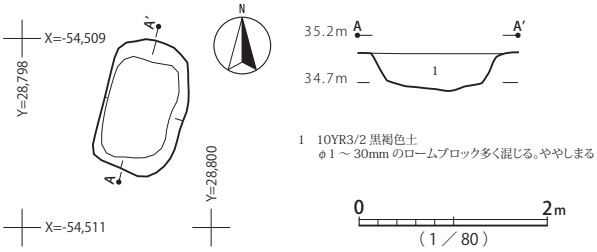


0　2m
（1／80）

SK005 AA′・BB′
1 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のロームブロック粒多く含む。焼土粒・炭化物微量含む。ややしまる
2 10YR3/3 暗褐色土　ローム多く混じる。ややしまる
3 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のロームブロック粒微量含む。焼土粒・炭化物微量含む。しまり弱い
4 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒やや混じる。ローム多く混じる。ぼそぼそする。しまり弱い
5 10YR3/3 暗褐色土　φ1 ～ 5mm のローム粒やや含む。ロームやや混じる。しまり弱い

第19図　SK001～SK005 平面図・断面図、SK003・SK004 遺物実測図

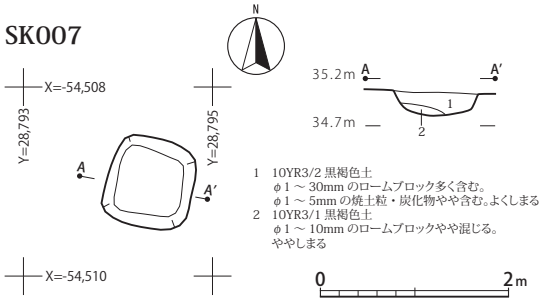
SK006



1　10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 30mm のロームブロック多く混じる。ややしまる

（1／80）

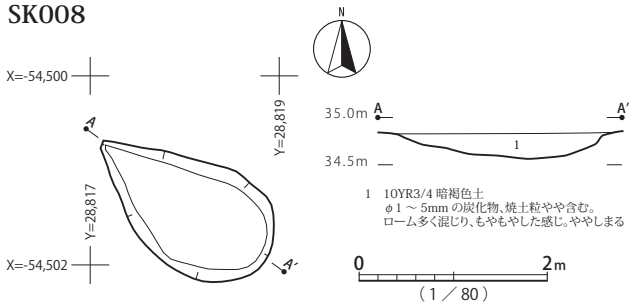
SK007



1　10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 30mm のロームブロック多く含む。
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物やや含む。よくしまる
2　10YR3/1 黒褐色土
φ1 ～ 10mm のロームブロックやや混じる。
ややしまる

（1／80）

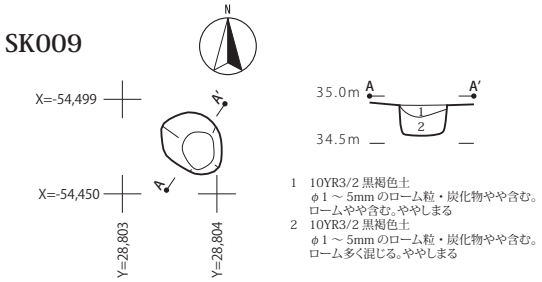
SK008



1　10YR3/4 暗褐色土
φ1 ～ 5mm の炭化物、焼土粒やや含む。
ローム多く混じり、もやもやした感じ。ややしまる

（1／80）

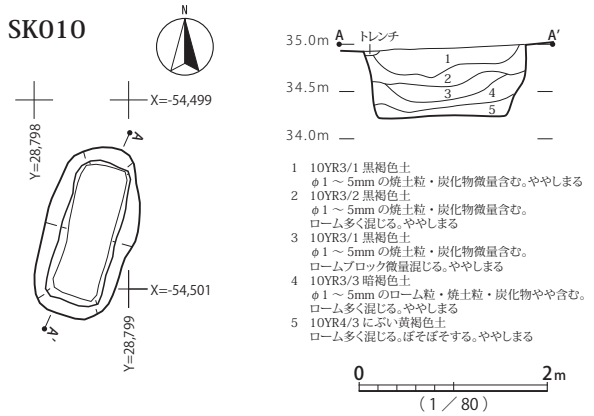
SK009



1　10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 5mm のローム粒・炭化物やや含む。
ロームやや含む。ややしまる
2　10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 5mm のローム粒・炭化物やや含む。
ローム多く混じる。ややしまる

（1／80）

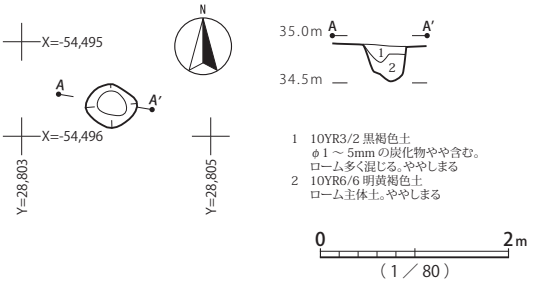
SK010



1　10YR3/1 黒褐色土
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物微量含む。ややしまる
2　10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物微量含む。
ローム多く混じる。ややしまる
3　10YR3/1 黒褐色土
φ1 ～ 5mm の焼土粒・炭化物微量含む。
ロームブロック微量混じる。ややしまる
4　10YR3/3 暗褐色土
φ1 ～ 5mm のローム粒・焼土粒・炭化物やや含む。
ローム多く混じる。ややしまる
5　10YR4/3 にぶい黄褐色土
ローム多く混じる。ぼそぼそする。ややしまる

（1／80）

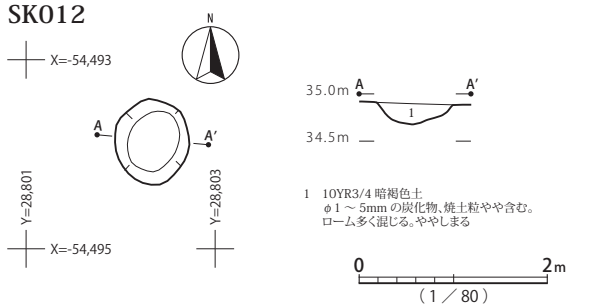
SK011



1　10YR3/2 黒褐色土
φ1 ～ 5mm の炭化物やや含む。
ローム多く混じる。ややしまる
2　10YR6/6 明黄褐色土
ローム主体土。ややしまる

（1／80）

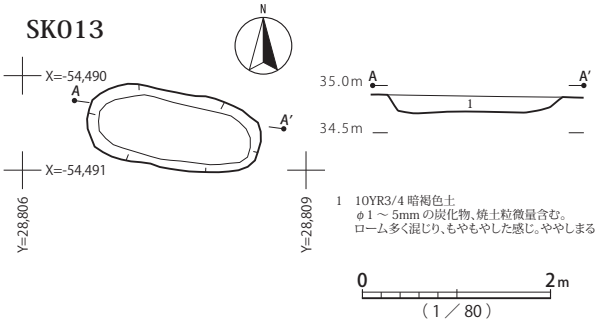
SK012



1　10YR3/4 暗褐色土
φ1 ～ 5mm の炭化物、焼土粒やや含む。
ローム多く混じる。ややしまる

（1／80）

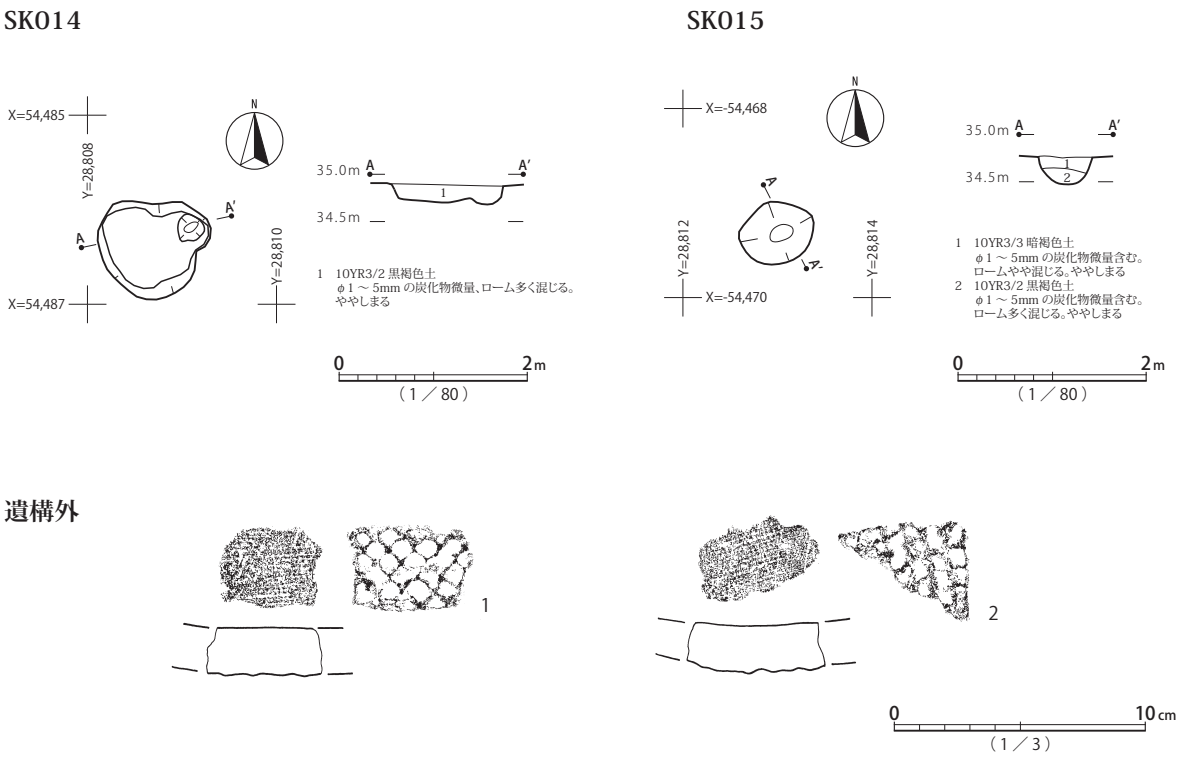
SK013



1　10YR3/4 暗褐色土
φ1 ～ 5mm の炭化物、焼土粒微量含む。
ローム多く混じり、もやもやした感じ。ややしまる

（1／80）

第20図　SK006～SK013 平面図・断面図



第21図　SK014・SK015 平面図・断面図、遺構外 遺物実測図

SK006（第 20 図、図版 12）

調査区中央南側に位置し、形体はやや長円形である。規模は長軸 1.40 m×短軸 0.85 m、確認面からの深さは 0.36 m、長軸を主軸とし、方位は N－25°－E である。覆土はロームブロックを多量に含んだ埋土である。出土遺物は土師器台付甕脚部の小片が覆土内から出土した。

SK007（第 20 図、図版 12）

調査区中央南側に位置し、形体は隅丸方形である。規模は長軸 0.95 m×短軸 0.91 m、確認面からの深さは 0.28 m、長軸を主軸とし、方位は N－20°－E である。覆土はロームブロックを多量に含んだ埋土である。出土遺物はまったくなく、時期は不明である。

SK008（第 20 図、図版 12）

調査区中央東側に位置し、形体は楕円形である。規模は長軸 2.11 m×短軸 1.15 m、確認面からの深さは 0.28 m、長軸を主軸とし、方位は N－50°－W である。覆土はローム混入暗褐色土を主体とする自然堆積である。出土遺物はまったくなく、時期は不明である。

SK009（第 20 図、図版 12）

調査区中央に位置し、形体は円形である。規模は長軸 0.74 m×短軸 0.56 m、確認面からの深さは 0.36 m、長径を主軸とし、方位は N－56°－W である。覆土はローム混入黒褐色土を主体とする自然堆積である。出土遺物はまったくなく、時期は不明である。

SK010（第 20 図、図版 12）

調査区中央に位置し、形体は長円形である。規模は長軸 1.85 m×短軸 1.01 m、確認面からの深さは 0.68 m、長軸を主軸とし、方位は N－18°－E である。覆土はローム混入黒褐色土を主体とする自然堆積である。出土遺物はまったくなく、時期は不明である。

SK011（第 20 図、図版 13）

調査区中央に位置し、形体は円形である。規模は長軸 0.55 m×短軸 0.45 m、確認面からの深さは 0.36 m、長径を主軸とし、方位は N－68°－W である。覆土はローム混入黒褐色土を主体とする自然堆積である。出土遺物はまったくなく、時期は不明である。

SK012（第 20 図、図版 13）

調査区中央に位置し、形体は円形である。規模は長軸 0.91 m×短軸 0.71 m、確認面からの深さは 0.20 m、長径を主軸とし、方位は N－25°－W である。覆土はローム混入暗褐色土を主体とする自然堆積である。出土遺物はまったくなく、時期は不明である。

SK013（第 20 図、図版 13）

調査区中央北側に位置し、形体は長円形である。規模は長軸 1.85 m×短軸 0.81 m、確認面からの深さは 0.16 m、短軸を主軸とし、方位は N－25°－E である。覆土はローム混入暗褐色土を主体とする自然堆積である。出土遺物はまったくなく、時期は不明である。

SK014（第 21 図、図版 13）

調査区中央北側に位置し、形体は楕円形である。規模は長軸 1.11 m×短軸 1.05 m、確認面からの深さは 0.20 m、長軸を主軸とし、方位は N－7°－E である。底面に小ピットを有する。覆土はローム混入暗褐色土を主体とする自然堆積である。出土遺物はまったくなく、時期は不明である。

SK015（第 21 図、図版 13）

調査区北側に位置し、形体は円形である。規模は長軸 0.71 m×短軸 0.65 m、確認面からの深さは 0.28 m、長径を主軸とし、方位は N－69°－E である。覆土はローム混入黒褐色土を主体とする自然堆積である。出土遺物はまったくなく、時期は不明である。

遺構外（第 21 図、図版 18）

遺構外出土遺物 1、2 は平瓦片である。凸面の叩き板は上総国分僧寺分類の 28 類（鶴岡ほか 2016）で、祇園原瓦窯産とみられる。

4　まとめ

今回の発掘調査の結果、竪穴建物跡７棟、方墳２基、土坑墓１基、土坑14基を検出した。

縄文時代早期にはSK001、SK002といった陥し穴やSK003などが作られている。縄文時代後期にはSK004が作られるが、縄文時代の遺構分布は全体的に希薄である。

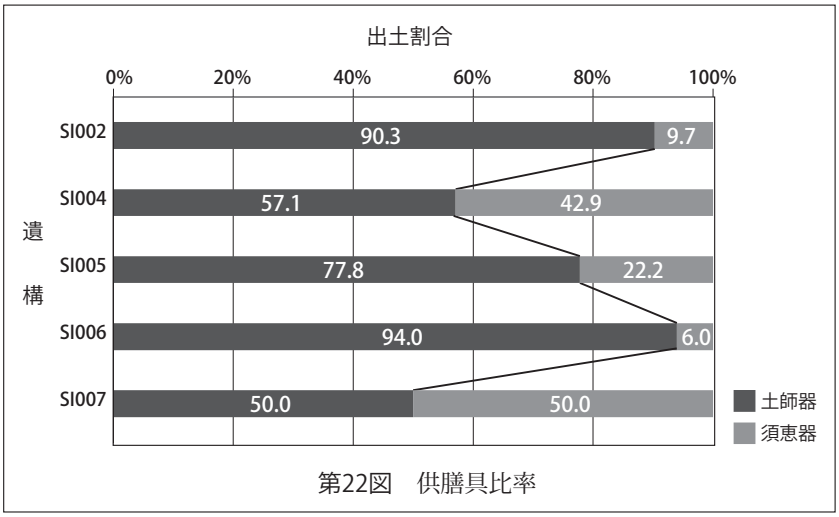
弥生時代後期の遺構ではSI001が検出され、この時期に集落が展開した可能性が高い。

古墳時代終末期～奈良時代前半になるとSM001、SM002、SK005といった終末期方墳や土坑墓が展開し、墓域として利用されたことがうかがえる。一方で今回の調査で出土した土師器はすべてロクロ土師器で、古墳時代から奈良時代にかけての生活痕跡は極めて希薄であった。

９世紀になるとSI002 ～ SI007竪穴建物跡６棟が出現する。これらの竪穴出土土器の様相は、①出土須恵器が永田・不入窯Ⅳ期のものが１点のみで、ほぼすべてが千葉産須恵器で占められる。②土師器杯がすべてロクロ土師器であり、底部未調整のものがみられず、９世紀前葉～中葉の特徴といえる。さらに、SI004からは武蔵型の小型甕が出土しており、このタイプの甕は武蔵国で特に多く出土する。南大広遺跡SI004出土のものは（第９図10）、定型化した逆コ字状口縁を持つものであり、この特徴は東京都日野市落川・一の宮遺跡編年24段階（930 ～ 950）頃から出現するため（福田2002）、これらの竪穴の年代は９世紀中葉で、このころ集落が展開したとみられる。

これらの竪穴から出土するすべての供膳具の土師器、須恵器の占める割合を求めると第22図のようになり、SI004、SI007のように土師器６：須恵器４、土師器５：須恵器５とほぼ同率となる竪穴と、SI005のように土師器８：須恵器２となる竪穴、SI002、SI006のように土師器９：須恵器１となる竪穴に分けられる。上総国分尼寺跡の北東に隣接する坊作遺跡での供膳具の比率と比較すると、坊作遺跡でもⅤ期（９世紀中葉）以降、土師器９：須恵器１と土師器供膳具の占める割合が大幅に増えることがわかる（小出ほか2002）。このことから南大広遺跡の竪穴の前後関係としては、SI004・SI007→SI005→SI002・SI006といった変遷が想定できよう。また、この変遷は竪穴の主軸方位の関係からも裏付けられ、SI004・SI007がわずかに西に振れ、SI002・SI006がわずかに東に振れる。

SM001、SM002の周溝覆土上層からは千葉産須恵器や原始灰釉陶器が出土することから、９世紀



第22図　供膳具比率

中葉に集落が展開する頃には周溝が埋まっていたとみられるが、墓域の展開する調査区東側に竪穴が入り込まないことを考えると、墓としての認識はされていたようである。

9世紀にはB地区に寺院が建立されたとみられる。今回のC地区の竪穴も9世紀中葉ごろより出現しており、寺院の存続時期と一致するため、これらの集落はB地区の寺院に伴うものだったとみられるが、出土鉄器に鑿や槍鉋といった木工具がないことを考えると、造営や維持・管理集落とみるより、運営集落とみるべきであろう。

今回の調査により南大広遺跡に新たな資料が加わることとなった。9世紀の集落、寺院のあり方について今回の資料と合わせて、A地区資料の再検討、B地区報告書の刊行を待ち、総合的に検討する必要があろう。

参考文献

浅利幸一1992「南大広遺跡（B地区）」『第7回市原市文化財センター遺跡発表会要旨平成3年度』財団法人市原市文化財センター

小川浩一ほか2020「南大広遺跡」『令和元年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

近藤　敏1989「定掘込遺跡」『昭和63年度市原市内遺跡群発掘調査報告』市原市教育委員会

近藤　敏2006「能満城跡遺跡」『市原市文化財センター年報平成17年度』財団法人市原市文化財センター

小出紳夫ほか2002『坊作遺跡』市原市教育委員会

北見一弘ほか2015『市原市諏訪台古墳群・天神台遺跡Ⅱ』市原市教育委員会

木對和紀1987「房総における改葬系区画墓の出現期−方形（円形）区画改葬墓の提唱−」『市原市文化財センター研究紀要Ⅰ』財団法人市原市文化財センター

坂井利明・市毛　勲1968「南大広遺跡」『南大広遺跡・海保古墳群』市原市教育委員会

高橋康男1998「南大広遺跡」『千葉県の歴史』資料編考古3（奈良・平安時代）千葉県

鶴岡英一ほか2016『上総国分僧寺跡Ⅱ』市原市教育委員会

福田健司2002「土器編年と実年代」『落川・一の宮遺跡Ⅲ総括編』落川・一の宮遺跡（日野3・2・7号線）調査会

山口　均2002「長岡京跡右京第689次（7ANBKJ地区）〜右京一条二坊七町、仮称「古城遺跡」〜」『長岡京跡ほか』向日市教育委員会

出土遺物観察表　凡例：法量の（　）は残存値、？は復元値を示す。

第１表　出土土器観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm				焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高	底径	最大幅			外面	内面	外面	内面	
4	15	1	SI001	セ 573SI－４７、貯蔵穴一括	弥生土器	広口壺	口縁～頸部	1/4 以下	21.4?	（6.1）	－	21.7?	やや甘い	やや粗雑 φ 5mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒、角閃石多く含む	5YR3/6 暗赤褐	5YR3/6 暗赤褐	口唇部縄文、押圧、頸部ヘラミガキ、赤彩、沈線文	口縁～頸部ヘラミガキ、赤彩	久ヶ原２式
4	15	2	SI001	セ 573SI－４６×５	弥生土器	甕	胴部	1/4 以下	－	（13.6）	－	－	やや甘い	やや粗雑 φ 5mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒多く含む	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	胴部ヘラナデ	ヘラナデ	
4	15	3	SI001	セ 573SI－４Ｂ一括	弥生土器	鉢	口縁～胴部	1/4 以下	－	（2.6）	－	－	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒やや含む	5YR6/6 橙	5YR4/8 赤褐	口唇部縄文、胴部羽状縄文	ヘラナデ、赤彩	内面に籾圧痕
6	15	1	SI002	セ 573SI－１34 床直	土師器	杯	口縁～底部	1/4 以下	14.7?	3.7	7.6?	14.8?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒微量含む	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	口縁付近ロクロナデ、体部～底部ヘラミガキ	ロクロ土師器
6	15	2	SI002	セ 573SI－１89 掘方	土師器	杯	底部～体部	1/4 以下	－	（2.1）	6.8	10.3?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒やや含む	7.5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部一方向の手持ちヘラケズリ	体部～底部ロクロナデ	ロクロ土師器
6	15	3	SI002	セ 573SI－１45	土師器	杯	底部	1/4 以下	－	（1.0）	7.1	－	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む、雲母粒微量含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	体部～底部ロクロナデ	ロクロ土師器
6	15	4	SI002	セ 573SI－１31、36、土器一括 D×２	土師器	杯	口縁～底部	1/4 以下	12.6?	3.5	7.6?	12.7?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の赤色粒、黒色粒、雲母粒微量含む	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	ロクロ土師器
6	14	5	SI002	セ 573SI－１47×４、52 カマド、66 カマド、78 カマド、土器一括 B×２	土師器	杯	口縁～底部	1/2 以上	15.4?	4.8	7.6?	15.6?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒やや含む	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ 口縁付近に沈線	ロクロ土師器
6	14	6	SI002	セ 573SI－１23、25、土器一括 A、土器一括 D×２	土師器	杯	口縁～底部	1/2	15.5?	5.1	7.3?	15.8?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、半透明粒やや含む	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	ロクロ土師器
6	15	7	SI002	セ 573SI－１ベルト一括	土師器	皿	口縁～底部	1/4 以下	12.0?	2.2	6.0?	12.3?	良好	普通 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む、雲母粒微量含む	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部ケズリ調整	口縁付近ロクロナデ、体部～底部ヘラミガキ	ロクロ土師器
6	14	8	SI002	セ 573SI－１35、51、土器一括 A×２、土器一括 B（同一個体 SI－１12、土器一括 C、注記なし）	土師器	鉢	口縁～底部	1/4 以下	20.0?	7.8	9.2?	20.5?	やや甘い	普通 φ 2mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む、雲母粒微量含む、ザラザラする	2.5YR4/4 にぶい赤褐	2.5YR4/4 にぶい赤褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端手持ちヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリ	口縁付近ロクロナデ、体部～底部ヘラミガキ	ロクロ土師器
6	15	9	SI002	セ 573SI－１29 床直×３	須恵器	杯	口縁～底部	1/4 以下	11.2?	4.1	5.2?	11.3?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒多く含む、赤色粒、黒色粒、雲母粒微量含む。	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端手持ちヘラケズリ、底部回転糸切り	口縁～底部ロクロナデ	千葉産
6	14	10	SI002	SI－１28、42、71 カマド、土器一括カマド×２	須恵器	杯	口縁～底部	1/3	15.5?	4.3	7.5	15.6?	やや甘い	普通 φ 2mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む 雲母粒やや含む	5YR3/3 暗赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端手持ちヘラケズリ、底部回転糸切り後、外周複数方向の手持ちヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	千葉産
6	14	11	SI002	セ 573SI－１36×８	須恵器	杯	口縁～底部	ほぼ完存	12.5	3.9	7.0	12.8	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む、φ 1mm 以下の雲母粒微量含む	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	千葉産
6	14	12	SI002	セ 573SI－１32 床直×26	土師器	甕	胴部～底部	1/4 以下	－	（6.8）	6.2	（13.4）	やや甘い	やや粗雑 φ 2mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む。	5YR4/6 赤褐	5YR3/4 暗赤褐	胴部縦ヘラケズリ、底部一方向からのヘラケズリ、立ち上がり部分強くナデ付ける	ヘラナデ	
6	14	13	SI002	セ 573SI－１20、21×３、22×４、土器一括 D×２（同一個体 18×２、土器一括 D×２）	土師器	甕	胴部～底部	1/4 以下	－	（5.2）	4.7?	（11.7）	やや甘い	やや粗雑 φ 2mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒やや含む	7.5YR3/3 暗褐	7.5YR3/3 暗褐	胴部ロクロ横ナデ、胴部下端ヘラケズリ、底部一方向からのヘラケズリ	ヘラナデ	
6	15	14	SI002	セ 573SI－１37、53 カマド、土器一括カマド	土師器	甕	底部	1/4 以下	－	（2.0）	4.5	（8.4）	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の赤色粒、黒色粒、雲母粒微量含む	7.5YR6/6 橙	7.5YR8/4 浅黄橙	胴部横ヘラケズリ、胴部下端横方向のヘラケズリ、底部一方向からのヘラケズリ	ロクロナデ	底部外面「×」の焼成前刻書
6	15	15	SI002	セ 573SI－１10、13×２、土器一括 A	土師器	甕	口縁～胴部	1/4 以下	21.8?	（11.0）	－	22.2?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒ややや含む	5YR4/4 にぶい赤褐	7.5YR4/3 褐	口縁部横ナデ、口縁つまみ上げ、胴部縦ヘラケズリ、	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデの上から指ナデ	胴部は厚さ 0.3cm と薄い
6	15	16	SI002	セ 573SI－１56 カマド、58 カマド、59 カマド×２、60 カマド	土師器	甕	口縁～胴部	1/4	22.2?	（5.8）	－	22.5?	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む、φ 1mm 以下の雲母粒微量含む	2.5YR4/4 にぶい赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	口縁部横ナデ、胴部縦ヘラケズリ	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ	
6	15	17	SI002	セ 573SI－１88 カマド×４、土器一括カマド	土師器	甕	口縁～胴部	1/4 以下	21.8?	（9.7）	－	23.4?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒多く含む。	7.5YR5/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部縦ヘラケズリ、	口縁部ヘラナデ、胴部ヘラナデ、部分的にコゲ	

挿図No.	図版No.	遺物No.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm				焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高	底径	最大幅			外面	内面	外面	内面	
6	14	18	SI002	セ 573SI－1 46 × 3、47 × 5、56 カマド× 8、57 カマド、61 カマド × 2、80 カマド、土器一括カマド× 3（同一個体 56 カマド× 2、58 カマド× 2、65 カマド、85 カマド、SI－1 土器一括 C、SI－2 土器一括 D、土器一括カマド× 3）	土師器	小型甕	口縁～胴部	口縁完存	16.6	（12.5）	－	17.5	やや甘い	普通 φ 2mm 以下の白色粒、赤色粒、雲母粒多く含む、ザラザラする	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	口縁部横ナデ、口縁つまみ上げ、胴部上端縦ヘラケズリ、下端横ヘラケズリ	口縁部横ナデ、胴部横ヘラナデ	
6	15	19	SI002	セ 573SI－1 90 掘方× 2	土師器	小型甕	口縁～胴部	1/4 以下	10.0?	（8.0）	－	10.3?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒多く含む、ザラザラする	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/4 にぶい赤褐	口縁部横ナデ、口縁つまみ上げ、胴部上端縦ヘラケズリ、下端斜めヘラケズリ	口縁部横ナデ、胴部横ヘラナデ、部分的に縦ヘラナデ	
7	14	20	SI002	セ 573SI－1 33、48、62 カマド、86 カマド、88 カマド（同一個体 17、42、59、68 カマド、76 カマド、ベルト × 2、土器一括 A、土器一括 C、土器一括 D × 3、土器一括カマド）	須恵器	甕	口縁～胴部	1/4 以下	20.0?	（12.5）	－	20.4?	やや甘い	普通 φ 2mm 以下の白色粒、赤色粒、雲母粒多く含む、ザラザラする	2.5YR4/4 にぶい赤褐	2.5YR4/6 赤褐	口縁部横ナデ、胴部平行叩き	口縁部横ナデ、胴部横ヘラナデ	千葉産
7	14	21	SI002	セ 573SI－1 26 床直、33、49、63 カマド× 3、ベルト一括	須恵器	甕	胴部	1/4 以下	－	（18.4）	－	（23.7）	やや甘い	普通 φ 2mm 以下の白色粒、赤色粒、雲母粒多く含む、ザラザラする	2.5YR4/4 にぶい赤褐	2.5YR4/4 にぶい赤褐	胴部平行叩き、胴部下端横ヘラケズリ	ヘラナデ、無文当て具痕	千葉産
7	16	22	SI002	セ 573SI－1 69 カマド、74 カマド、79 カマド、土器一括カマド× 2（同一個体 53 カマド）	須恵器	甑	口縁～胴部	1/4 以下	26.4?	（8.4）	－	27.0?	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒多く含む	5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	口縁部横ナデ、胴部平行叩き後、ロクロナデ	口縁部横ナデ、胴部横ヘラナデ	千葉産
7	16	23	SI002	セ 573SI－1 19	須恵器	甑	胴部～底部	1/4 以下	－	（10.8）	14.0?	20.2?	良好	普通 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒多く含むザラザラする	2.5YR3/4 暗赤褐	2.5YR3/4 暗赤褐	胴部～胴部下端斜めヘラケズリ	横ヘラナデ	千葉産
7	16	24	SI002	セ 573SI－1 52 カマド × 4、53 カマド、61 カマド× 11、65 カマド × 12、82 カマド、87 カマド、土器一括 D × 2、土器一括カマド× 3（同一個体土器一括 C × 2、土器一括 D、調査区一括、全体一括）	須恵器	羽釜	口縁～胴部	1/4	21.1?	（25.3）	－	26.2?	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、黒色粒、灰色粒多く含む、φ 1mm 以下の雲母粒やや含む	5YR4/6 赤褐	5YR4/6 赤褐	口縁～頸部ロクロナデ、胴部平行叩き後粘土帯を貼り付けロクロにより鍔部整形、胴部下端ヘラケズリ	口縁～頸部ロクロナデ、胴部ヘラナデ	千葉産
9	14	1	SI004	セ 573SI－3 24 × 3、25、カマド一括× 2	土師器	杯	口縁～底部	1/2	13.3?	3.7	8.6?	13.4?	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の赤色粒微量含む、φ 1mm 以下の白色粒、雲母粒やや含む	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	ロクロ土師器
9	14	2	SI004	セ 573SI－3 13 × 4、14、15、16、17、18、未注記	土師器	杯	口縁～底部	完存	13.2	3.6	7.0	13.3	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、半透明粒やや含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部糸切り後、回転ヘラケズリ、体部～底部火襷痕	口縁～底部ロクロナデ	ロクロ土師器
9	16	3	SI004	セ 573SI－3 19、20	土師器	杯	底部	1/4 以下	－	（1.1）	7.3	（9.6）	やや甘い	普通 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、灰色粒、雲母粒やや含む	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	体部下端手持ちヘラケズリ、底部糸切り後、外周手持ちヘラケズリ	底部ロクロナデ後、粗いヘラミガキ	ロクロ土師器
9	16	4	SI004	セ 573SI－3 30 × 6、未注記× 4	土師器	皿	口縁～底部	ほぼ完存	14.0	2.1	7.0	14.2	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒多く含む	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	ロクロ土師器
9	16	5	SI004	セ 573SI－3 ツイカ P1 土器一括	須恵器	杯	底部	1/4 以下	－	（0.8）	7.0	（8.3）	やや甘い	やや緻密 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒、海綿骨針少量含む	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	底部回転ヘラケズリ、体部下端回転ヘラケズリ、破損面摩耗	ロクロナデ	永田・不入窯Ⅳ期
9	14	6	SI004	セ 573SI－3 7、9、46、48、B 一括× 7、C 一括、カマド、カマド一括	須恵器	杯	口縁～底部	1/2 以上	14.7	4.6	6.3	14.8	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、透明粒、雲母粒多く含む、ザラザラする	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部一方向の手持ちヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	千葉産
9	16	7	SI004	セ 573SI－3 45	土師器	甕	口縁～胴部	1/4 以下	18.6?	（5.5）	－	19.1?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒少量含む	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	口縁～頸部横ナデ、胴部縦ヘラケズリ	口縁部横ナデ、胴部横ヘラナデ	
9	14	8	SI004	セ 573SI－3 31、32	土師器	甕	胴部～底部	1/4 以下	－	（3.1）	5.1	（9.1）	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒、海綿骨針多く含む	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	胴部横ヘラケズリ、底部複数方向の手持ちヘラケズリ	胴部～底部ヘラナデ	
9	16	9	SI004	セ 573SI－3 41 床直、B 一括（同一個体 40 床直、41 床直）	土師器	小型甕	口縁～胴部	1/4 以下	－	（3.4）	－	－	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒多く含む	7.5YR4/6 にぶい褐	5YR4/8 赤褐	口縁～胴部ロクロナデ後、胴部縦ヘラケズリ	口縁～胴部ロクロナデ	

挿図No.	図版No.	遺物No.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm				焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高	底径	最大幅			外面	内面	外面	内面	
9	16	10	SI004	セ 573SI－3 45 × 5	土師器	小型甕	口縁～胴部	1/4 以下	12.4?	（4.8）	－	14.4?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む、雲母粒やや含む。φ 2mm 以下の透明粒微量含む	2.5YR4/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	口縁～頸部横ナデ、胴部横ヘラケズリ	口縁～頸部横ナデ、胴部横ヘラナデ	逆コ字状口縁、武蔵型
9	14	11	SI004	セ 573SI－3 23 カマド、28 × 2、35 × 3、36、42、43、45、47、B一括× 2、カマド一括× 7	須恵器	甕	口縁～底部	1/2	19.6?	22.6	12.6?	21.8?	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、黒色粒多く含む、雲母粒微量含む、ザラザラする	7.5YR3/1 黒褐	5YR3/1 黒褐	口縁～頸部横ナデ、胴部平行叩き、胴部下端横ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	口縁～頸部横ナデ、胴部無文当て具痕、横ヘラナデ	千葉産
9	16	12	SI004	セ 573SI－3 5、50、B一括× 3	須恵器	甕	口縁～胴部	1/4 以下	20.0?	（6.6）	－	20.7?	良好	普通 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	口縁～頸部横ナデ、胴部平行叩き、口縁折り曲げ	口縁～頸部横ナデ、胴部横ヘラナデ	千葉産
9	16	13	SI004	セ 573SI－3 44 × 24	須恵器	甑	底部～胴部	1/4 以下	－	（7.2）	14.4?	19.7?	やや甘い	粗雑 φ 1mm 以下の白色粒多く含む、黒色粒、雲母粒少量含む、ザラザラする	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐	胴部斜めヘラケズリ、部分的に二次的な被熱を受け発泡する	横ヘラナデ	千葉産
9	14	14	SI004	セ 573SI－3 3 ベルト× 6（同一個体 A 一括× 4、カマド一括、遺跡一括× 3）	須恵器	広口壺	口縁～胴部	1/4	22.8?	（16.8）	－	28.1?	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、黒色粒多く含む、雲母粒微量含む、ザラザラする	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	口縁～頸部ロクロナデ、胴部平行叩き、全体的に摩耗し不明瞭	口縁～頸部ロクロナデ、胴部横ヘラナデ	千葉産
10	16	1	SI005	セ 573SI－5 ツイカ 20	土師器	杯	底部	1/4 以下	－	（1.3）	6.4	8.4?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒やや含む。	5YR7/8 橙	5YR6/6 橙	底部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	底部ロクロナデ	
10	14	2	SI005	セ 573SI－5 3 カマド × 2、5 カマド、9 カマド、10 カマド× 2、11 カマド、12 カマド、13 カマド× 2、14 カマド、15 カマド、16 カマド × 2、17 カマド、18 カマド、1 カマド一括、セ 571 48 トレ 1、48 トレ 2 試掘× 7（同一個体 8 カマド、19 カマド、セ 571 48 トレ 1 × 2）	土師器	甕	胴部～底部	1/2	－	（16.4）	5.7?	21.4?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒微量含む	5YR6/6 橙	2.5YR5/8 明赤褐	胴部横ヘラケズリ、部分的にコゲ、底部静止ヘラケズリ	胴部～底部横ヘラナデ	
12	17	1	SI006	セ 573SI－6 12、B 区一括× 2（同一個体 A 区一括）	土師器	杯	体部～底部	1/3	－	（2.7）	7.0?	11.3?	やや甘い	普通 φ 3mm 以下の赤色粒微量含む、φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒多く含む、φ 1mm 以下の雲母粒微量含む	5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	体部ロクロナデ、体部下端手持ちヘラケズリ、底部複数方向の手持ちヘラケズリ	体部～底部ロクロナデ	底部外面「至」墨書
12	17	2	SI006	セ 573SI－6 D 区一括	土師器	杯	底部	1/4 以下	－	（0.8）	（2.3）	（3.2）	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒微量含む	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	体部ロクロナデ、底部、体部下端ヘラケズリ	体部～底部ロクロナデ	底部外面不明墨書
12	14	3	SI006	セ 573SI－6 9 × 2、10 × 2、37 カマド側× 2、A 区一括、B 区一括× 4（同一個体 B 区一括）	土師器	椀	口縁～底部	ほぼ完存	17.4	5.4	7.0	18.0	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒多く含む	10YR3/3 暗褐、部分的に 5YR6/6 橙	10YR3/3 暗褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端底部手持ちヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ、体部～底部ヘラミガキ	
12	17	4	SI006	セ 573SI－6 17、C 区一括× 5、D 区一括	土師器	甕	口縁～胴部	1/4	20.0?	（4.3）	－	20.2?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、半透明粒やや含む、海綿骨針微量含む	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	口縁～頸部横ナデ、胴部縦ヘラケズリ	口縁～頸部横ナデ、胴部ヘラナデ	
12	15	5	SI006	セ 573SI－6 28、33、34、D 区一括、全体一括	土師器	小型甕	口縁～胴部	1/2	9.4?	（6.7）	－	11.0?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む、雲母粒微量含む	5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	口縁～頸部ロクロナデ、胴部縦ヘラケズリ	口縁～頸部ロクロナデ、胴部ヘラナデ	
12	17	6	SI006	セ 573SI－6 A 区一括	土師器	台付甕	胴部～脚部	1/4 以下	－	（4.3）	－	8.9?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒やや含む	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	胴部縦ヘラケズリ	胴部ヘラナデ	
12	17	7	SI006	セ 573SI－6 4	須恵器	甕	口縁～胴部	1/4	29.6?	（8.8）	－	29.8?	良好	やや粗雑 φ 2mm 以下の白色粒、黒色粒、多く含む、雲母粒微量含む、ザラザラする	10YR5/1 褐灰	10YR5/3 にぶい黄褐	口縁部横ナデ、胴部平行叩き	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、無文当て具痕	千葉産
12	17	8	SI006	セ 573SI－6 29 × 2（同一個体 5、18 ～ 22、25 床直、26、31、32、35、36、41、A 区一括、D 区一括× 8）	須恵器	甕	胴部	1/4 以下	－	（15.1）	－	－	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒多く含む、雲母粒やや含む	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	胴部平行叩き、ナデ	胴部無文当て具痕、ヘラナデ	千葉産
12	17	9	SI006	セ 573SI－6 43、D 区一括× 2	須恵器	甕	胴部～底部	1/2	－	（2.2）	11.2?	13.1?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒多く含む	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/1 褐灰	胴部下端横ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	胴部～底部ヘラナデ	千葉産
12	17	10	SI006	セ 573SI－6 3、C 区一括（同一個体 B 区一括）	須恵器	甕	胴部	1/4 以下	－	（10.4）	－	－	良好	やや緻密 φ 2mm 以下の白色粒、黒色粒、灰色粒、半透明粒、雲母粒やや含む	10YR6/1 褐灰	5YR7/2 灰白	平行叩き、全面に自然釉	ヘラナデ	東海産
12	17	11	SI006	セ 573SI－6 23 床直、A 区一括、B 区一括、C 区一括	須恵器	瓶	胴部	1/4 以下	－	（4.7）	－	－	良好	やや緻密 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、灰色粒やや含む	7.5YR6/1 褐灰	7.5YR6/1 褐灰	ロクロナデ、一部自然釉	ロクロナデ	東海産

挿図No.	図版No.	遺物No.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm				焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高	底径	最大幅			外面	内面	外面	内面	
12	17	12	SI006	セ 573SI－6 42 床直	原始灰釉	瓶	胴部	1/4 以下	－	（8.5）	－	－	良好	緻密 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、透明粒微量含む	7.5YR4/4 褐	7.5YR4/1 褐灰	ロクロナデ、一部自然釉	ロクロナデ、粘土紐痕明瞭	東海産
13	15	13	SI006	セ 573SI－6 7、39、43、45、46、A 区一括×5、B 区一括×12、C 区一括、北カマド一括×5（同一個体 B 区一括、北カマド一括×2）	須恵器	甑	胴部～底部	1/2	－	（18.7）	15.5?	28.6?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、灰色粒、半透明粒、雲母粒ややや含む	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y4/2 暗灰黄	胴部平行叩き、胴部下端横ヘラケズリ	胴部横ヘラナデ	千葉産
15	17	1	SI007	セ 573SI－7 カマド一括、A 区側×5	土師器	杯	口縁～底部	1/2	13.8?	3.8	8.0?	14.0?	やや甘い	普通 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒やや含む、透明粒微量含む	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	
15	15	2	SI007	セ 573SI－7 4、16、20、23 カマド、カマド内ベルト	土師器	高台付椀	口縁～底部	2/3	16.5	5.2	7.2	16.7	やや甘い	やや粗雑 φ 2mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、体部火襷痕、底部回転糸切り後、回転ヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ後、底部粗いヘラミガキ	
15	17	3	SI007	セ 573SI－7 8、9	土師器	鉢	口縁～体部	1/4 以下	20.7?	（4.8）	－	21.0?	良好	普通 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒やや含む、雲母粒微量含む	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	口縁～体部ロクロナデ	口縁～体部ロクロナデ後、体部ヘラミガキ	
15	17	4	SI007	セ 573SI－7 5 ×2、7（同一個体 5、15）	土師器	甕	口縁～胴部	1/4 以下	－	（10.0）	－	－	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒ややや含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	口縁部横ナデ、胴部縦ケズリ	口縁部横ナデ、胴部横ヘラナデ	
15	15	5	SI007	セ 573SI－7 14 ×2、22 カマド、カマド内ベルト×4	土師器	小型甕	口縁～胴部	口縁ほぼ完存	11.9	（3.1）	－	（12.1）	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、灰色粒、半透明粒、雲母粒ややや含む	10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	口縁部横ナデ、胴部縦ケズリ	口縁部横ナデ、胴部横ヘラナデ	
15	15・18	6	SI007	セ 573SI－7 2	須恵器	杯	口縁～底部	1/2	13.8?	4.2	6.1	14.0?	普通	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒多く含む、ザラザラする	10YR3/2 黒褐	5YR4/4 にぶい赤褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	千葉産、底部外面「玉」墨書
15	15	7	SI007	セ 573SI－7 床直 1	須恵器	杯	口縁～底部	ほぼ完存	14.6	3.8	7.0	14.8	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒多く含む、ザラザラする	10YR3/1 黒褐	10YR3/2 黒褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	千葉産
15	15・18	8	SI007	セ 573SI－7 30、D 区一括（同一個体 24 カマド、カマド内ベルト）	須恵器	甕	胴部～底部	2/3	－	（9.0）	13.3?	19.6?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む、雲母粒ややや含む、ザラザラする	7.5YR3/4 暗褐	2.5YR3/6 暗赤褐	胴部ロクロナデ、、胴部下端ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	体部～底部横ヘラナデ	千葉産、底部外面「Z」のヘラ記号
15	15	9	SI007	セ 573SI－7 21 床直カマド、24 ～26 カマド、29 カマド×3、31、32、37、カマド内ベルト	須恵器	甕	胴部～底部	2/3	－	（16.2）	16.8?	32.6?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、半透明粒、雲母粒多く含む、ザラザラする	5YR3/4 暗赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐	胴部平行叩き、胴部下端ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	胴部～底部横ヘラナデ、胴部に直径 0.8 ㎝ほどの圧痕 2 つ	千葉産
15	15	10	SI007	セ 573SI－7 27 カマド×5、28 カマド	須恵器	広口壺	胴部	2/3	－	（17.2）	－	（21.8）	良好	普通 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、灰色粒、雲母粒やや含む	7.5YR5/1 褐灰	10YR6/2 灰黄褐	胴部平行叩き後、部分的にロクロナデ	胴部無文当て具痕	千葉産
15	18	11	SI007	セ 573SI－7 34（同一個体 33）	土製品	ミニチュア甑	口縁～底部	1/2	6.4?	1.7	6.2?	6.8?	甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、半透明粒少量含む	5YR3/6 暗赤褐	5YR4/8 明赤褐	口縁折り返し、体部ナデ	口縁～体部指ナデ	
17	18	1	SM001	セ 573SM－1 一括×2	須恵器	杯	口縁～底部	1/4 以下	10.8?	4.2	5.6?	10.9?	やや甘い	やや粗雑 φ 1mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒多く含む、ザラザラする	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	口縁～体部ロクロナデ、体部下端手持ちヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリ	口縁～底部ロクロナデ	千葉産
17	18	2	SM001	セ 573SM－1 33、34	原始灰釉陶器	瓶	胴部	1/4 以下	－	（13.7）	－	－	良好	緻密 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、灰色粒微量含む	2.5YR4/2 灰赤	10YR5/2 灰黄褐	ロクロナデ、胴部上端に自然釉	ロクロナデ、粘土紐痕明瞭	東海産
18	18	1	SM002	セ 573SM－2 5	須恵器	甕	胴部	1/4 以下	－	（4.2）	－	－	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒ややや含む	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/3 褐	胴部平行叩き	胴部ヘラナデ	千葉産
18	18	2	SM002	セ 571 69 トレ 1 ×4	須恵器	甕	頸部～胴部	1/4 以下	－	（5.6）	－	－	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒ややや含む	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	頸部ロクロナデ、胴部平行叩き	頸部ロクロナデ、胴部横ヘラナデ	千葉産
18	18	3	SM002	セ 571 69 トレ 1 ×2	須恵器	甕	胴部～底部	1/4	－	（5.5）	16.2?	21.8?	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒ややや含む	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	胴部下端ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	胴部～底部横ヘラナデ	千葉産
18	18	4	SM002	セ 571 69 トレ 2	灰釉陶器	瓶	胴部	1/4 以下	－	（7.0）	－	－	良好	緻密 φ 1mm 以下の白色粒、黒色粒、灰色粒ややや含む	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ	東海産
19	18	1	SK003	セ 573SK－5 1 ×3	縄文土器	鉢	胴部	1/4 以下	－	（7.7）	－	－	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母粒ややや含む	7.5YR7/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	撚り糸文	ナデ	縄文早期
19	18	1	SK004	セ 573SK－15 一括×4	縄文土器	鉢	胴部	1/4 以下	－	（4.7）	－	－	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、黒色粒、雲母粒ややや含む	7.5YR4/3 褐	5YR4/4 にぶい赤褐	沈線文、粘土帯に押圧	ヘラミガキ	加曽利 B 式精製土器

第２表　出土土製品観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	遺構No.	注記	種別	部位	寸法 cm/g					焼成	胎土	色調		特徴	備考
							長さ	幅	厚さ	重量	その他			表面	裏面		
9	16	15	SI004	セ 573SI－３37 × 3	壁材	一部	5.0	4.4	2.2	31.4	－	不良	粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒多く含む	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	表面に繊維質（スサ）の圧痕	スサ入り粘土
13	17	14	SI006	セ 573SI－６北カマド焼土	支脚	1/2	10.8	6.2	6.7	433.3	－	不良	粗雑 φ 5mm 以下の白色粒、黒色粒多く含む	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	被熱してぼそぼそする	
15	18	12	SI007	セ 573SI－７34 カマド	ミニチュアカマド？	庇部	2.9	1.6	0.2	2.3	－	甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、黒色粒、やや含む	2.5YR3/6 明赤褐	2.5YR3/6 明赤褐	表面指ナデ、裏面指ナデ、指頭痕	
17	18	3	SM001	セ 573SM－１８	丸瓦	一部	7.8	7.5	2.5	179.8	布目 12 × 13 本（4㎠）	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒多く含む、透明粒微量含む	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	凸面ロクロナデ、擦痕、凹面布目痕、破損面擦痕	凸面、破損部の一部を砥石として転用、祇園原瓦窯産？
21	18	1	遺構外	セ 571 イセキ一括	平瓦	一部	（3.4）	（4.7）	1.9	43.2	布目 13 × 11 本（4㎠）	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒やや含む	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	凸面僧寺彫刻板 28（斜格子叩き）、凹面布目痕	祇園原瓦窯産？
21	18	2	遺構外	セ 571 イセキ一括	平瓦	一部	（3.8）	（5.6）	1.9	39.5	布目 11 × 11 本（4㎠）	やや甘い	やや粗雑 φ 3mm 以下の白色粒、赤色粒、黒色粒やや含む	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	凸面僧寺彫刻板 28（斜格子叩き）、凹面布目痕	祇園原瓦窯産？

第３表　出土石製品観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	遺構No.	注記	種別	部位	寸法 cm/g				色調		特徴
							長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	表面	裏面	
13	17	15	SI006	セ 573SI－６44	礫	完存	6.3	3.7	4.0	112.3	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	使用痕なし、砂岩
15	18	13	SI007	セ 573SI－７３	紡錘車	完存	（3.7）	（1.2）	（1.5）	29.6	10Y3/1 オリーブ黒	10Y3/1 オリーブ黒	表面～側面上端横ケズリ、側面下端縦ケズリ、裏面横ケズリ、頁岩

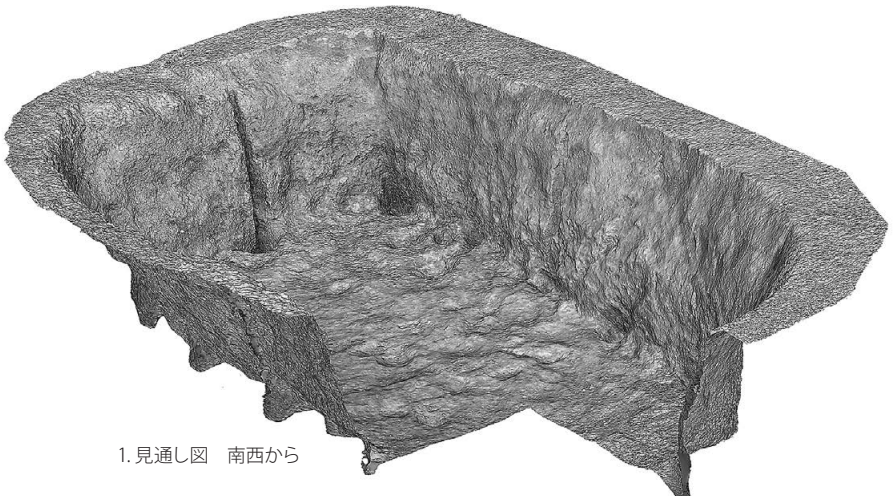
第４表　出土鉄製品観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	遺構No.	注記	種別	部位	寸法 cm/g				備考
							長さ	幅	厚さ	重量	
7	16	25	SI002	セ 573SI－１54 カマド	釘	頭～先端（完形）	4.6	0.4	0.3	2.5	頭の部分がつぶれる、部分的に木質が残る
7	16	26	SI002	セ 573SI－１55 カマド	釘	頭～先端（2/3）	（2.5）	0.3	0.3	1.5	頭の部分がつぶれる
7	16	27	SI002	セ 573SI－１84 カマド	釘	頭～先端（完形）	4.5	0.3	0.3	4.6	頭の部分がつぶれる、部分的に木質が残る、頭から 1/3 ほどの部分を直角に曲げる
9	16	16	SI004	セ 573SI－３22 ベルト	鉄鏃	頸部～茎部	全長（7.1）、頸長（4.3）、茎長 2.8	頸幅 0.8、茎幅 0.4	頸厚 0.4、茎厚 0.3	4.5	頸部と茎部のマチが平坦、頸部に繊維質が交差して巻きつく
13	17	16	SI006	セ 573SI－６２周溝	刀子	刀身～茎（完形）	全長 18.3、刀身長 10.4、茎長 7.9	刃幅 0.9 ～ 1.3、茎幅 0.7	茎厚 0.2、刀身厚 0.3 ～ 0.4	17.4	茎部に木質が残る
13	17	17	SI006	セ 573SI－６１	刀子	刀身～茎（2/3）	全長（10.6）、刀身長 9.0、茎長（1.6）、	刃幅 0.7 ～ 0.9、茎幅 0.8	茎厚 0.3、刀身厚 0.3	7.4	
13	17	18	SI006	セ 573SI－６38	鎌	完形	13.0	1.6 ～ 2.8	0.3	38.6	
15	18	14	SI007	セ 573SI－７Ｄ区一括	釘	身（1/4）	2.0	0.4	0.4	1.1	部分的に木質が残る

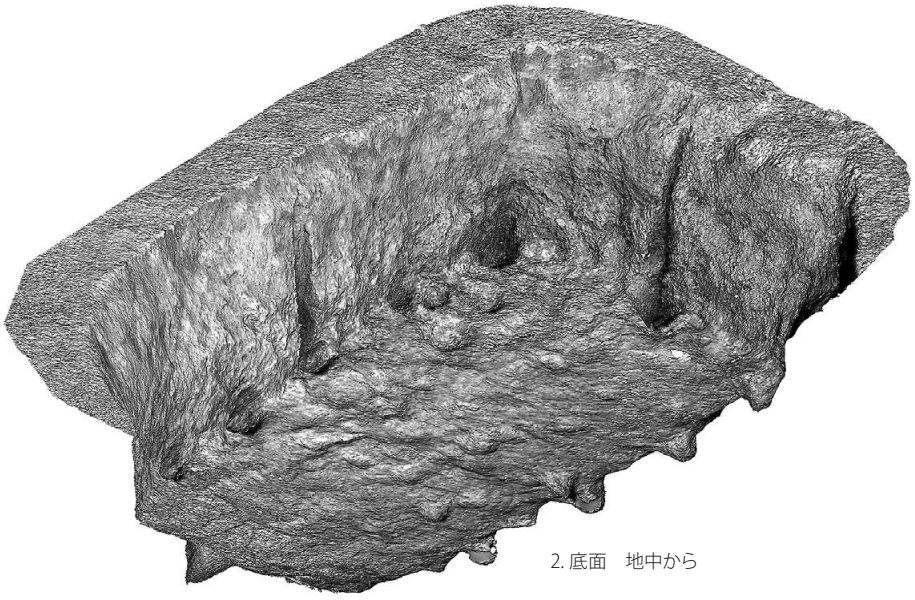
写真図版

南大広遺跡周辺空中写真（昭和 36 年撮影）

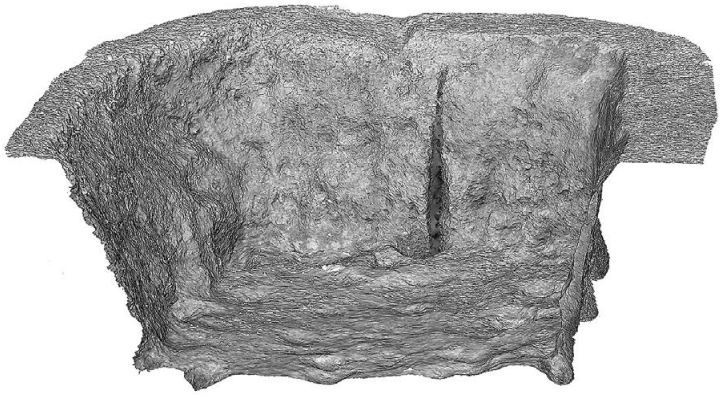
完掘全景　上空から（中村照雄氏撮影）



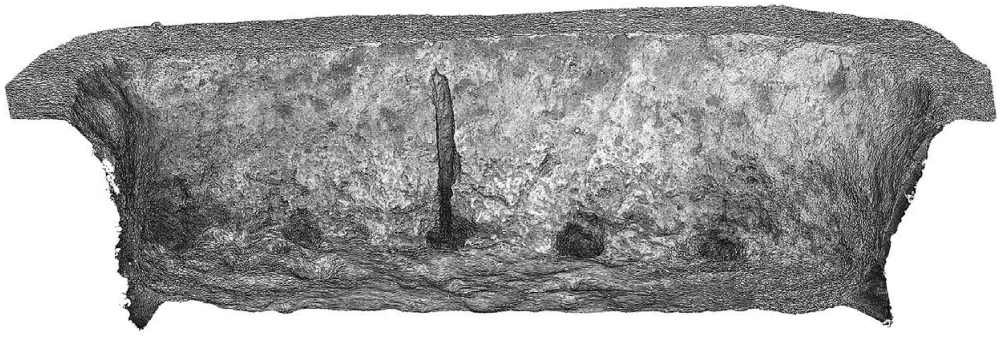
1. 見通し図　南西から



2. 底面　地中から



3. 断面　南西から



4. 断面　西から

SK005　三次元モデル画像

調査前全景　南東から

表土掘削

表土掘削

調査区北側遺構検出状況　西から

調査区南側遺構検出状況　西から

調査風景　北西から

調査風景　東から

SI001 出土状況　南から

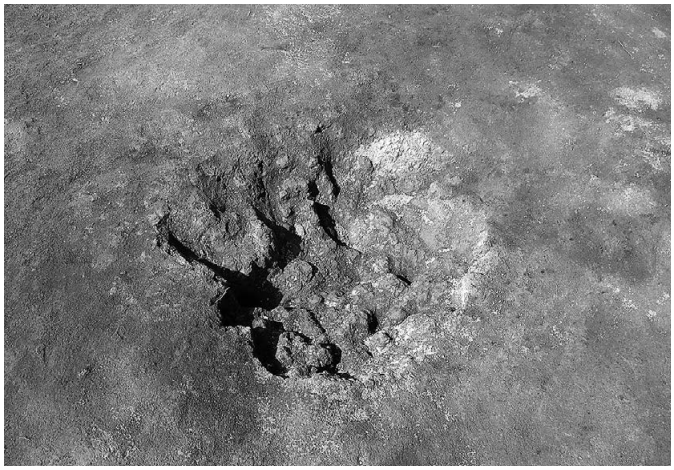
SI001 出土状況　西から

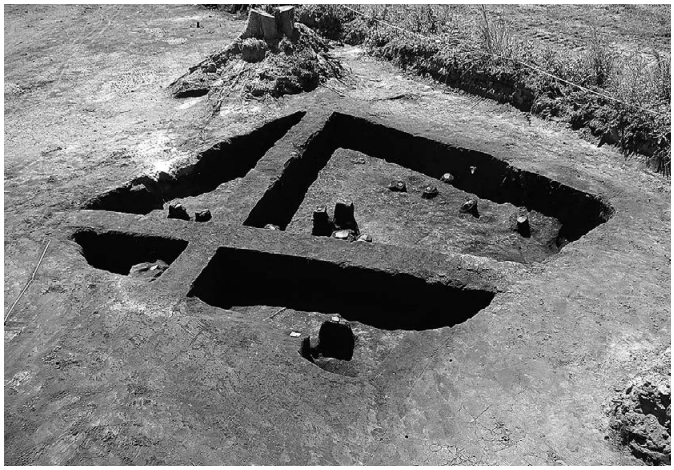
SI001－P5 出土状況　西から

SI001 炭化材検出　西から

SI001 炉焼土面まで　東から

SI001 完掘　東から


SI001 炉完掘　南から


SI002 出土状況　北西から

SI002 カマド出土状況　南から

SI002 カマド出土状況近景　南から

SI002 カマド近景　南から

SI002 完掘　南から

SI003 カマド　南から

SI003 完掘　西から

SI002・SI003 完掘全景　北西から

SI004 出土状況　南から

SI004 カマド前出土状況　南から

SI004 カマド出土状況　南から

SI004 全景　南から

SI004 完掘　南から

SI005 出土状況　南から

SI005 出土状況　西から

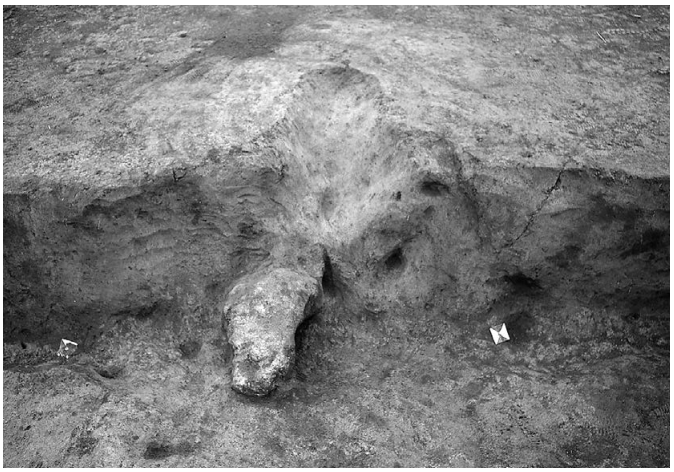
SI005 全景　南から

SI005 完掘　南から

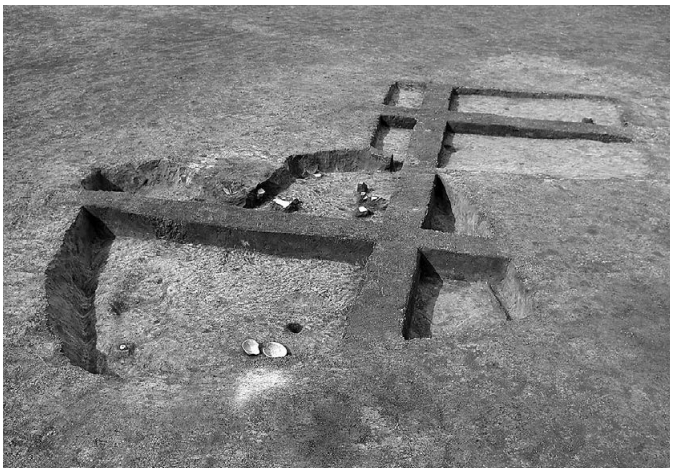
SI006 出土状況　南から

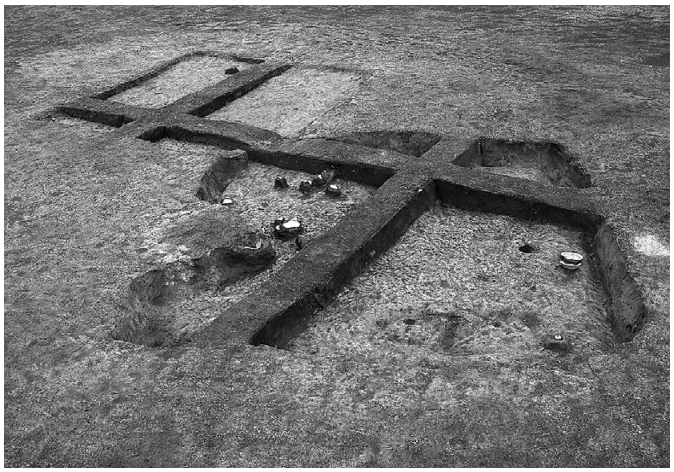
SI006 出土状況　東から

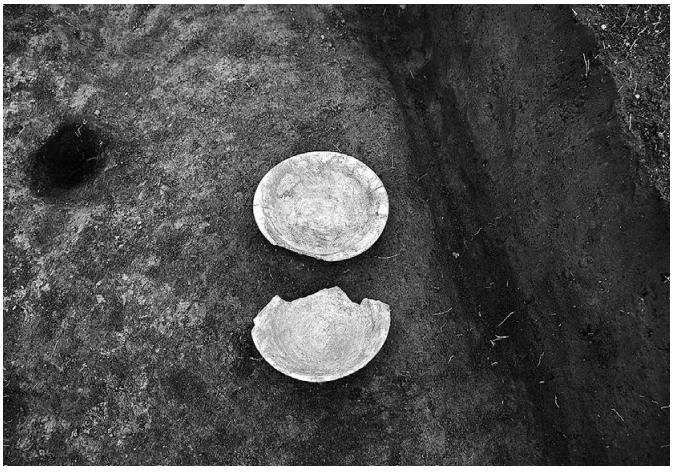
SI006 北カマド　南から

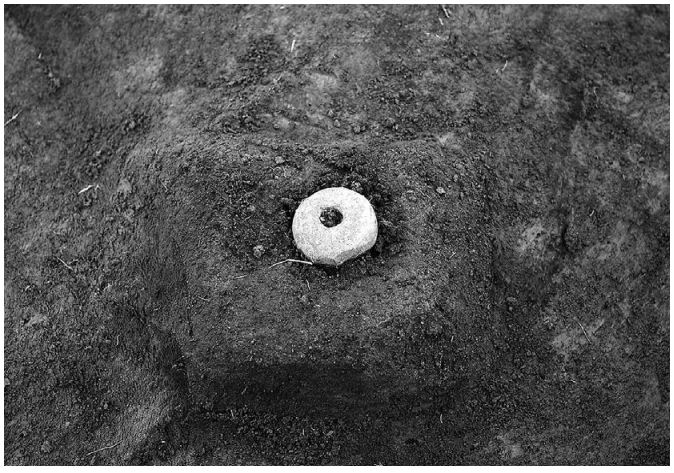

SI006 西カマド　東から

SI006 完掘　東から

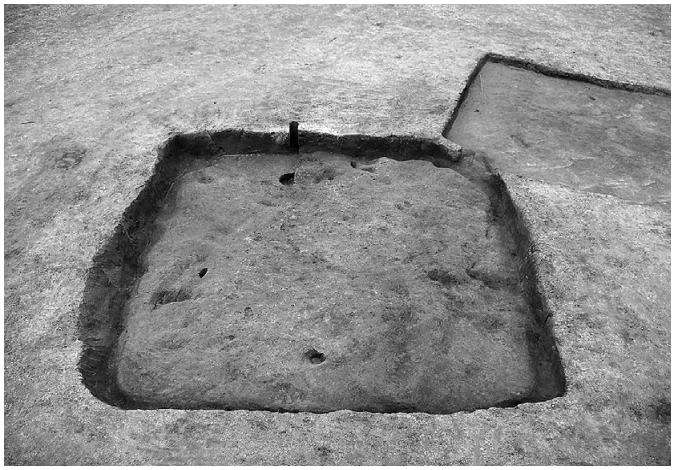

SI007 出土状況　南から

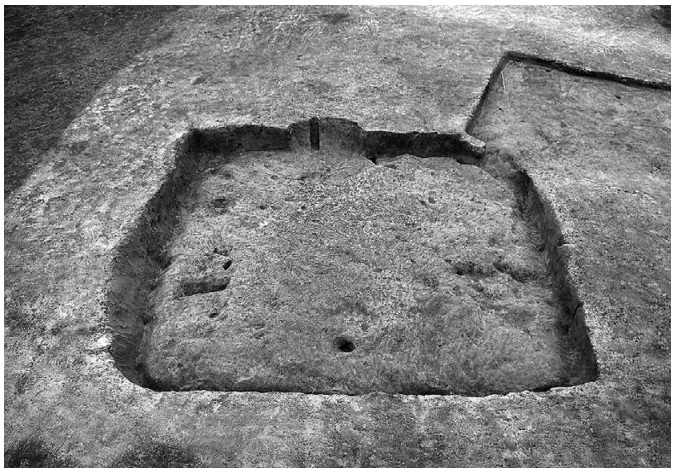

SI007 出土状況　西から


SI007 墨書土器出土状況　西から


SI007 石製紡錘車出土状況　東から

SI007 カマド出土状況　南から


SI007 全景　南から


SI007 完掘　南から

SM001 遺構検出状況　南から

SM001 出土状況　北東から

SM001 出土状況　南西から

SM001 完掘　北から

SM001 周溝完掘　北東から

SM002 出土状況　南東から

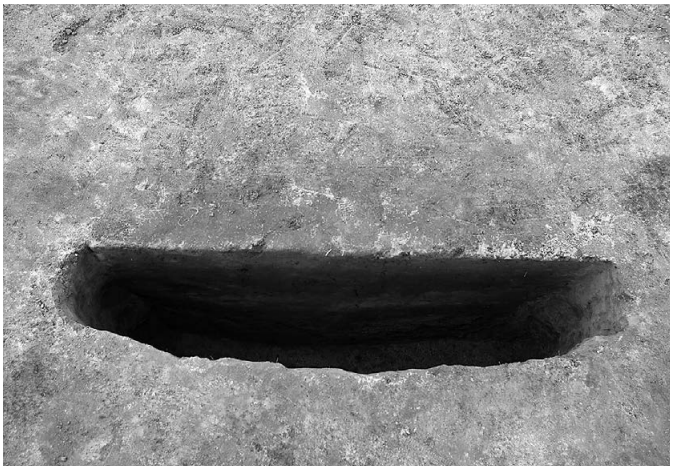
SM002 出土状況　北西から

SM002 出土状況　北西から

SM002 セクション図作成風景

SM002 全景　南東から

SM002 硬化面検出　南東から


SK001 半裁　南東から

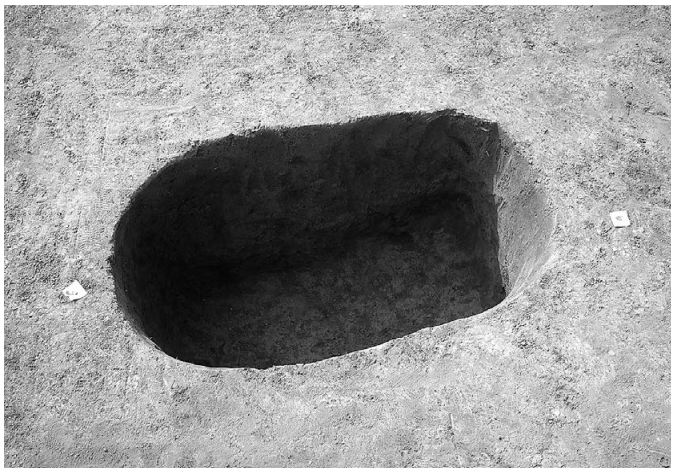
SK001 完掘　西から

SK002 焼土面まで　北から

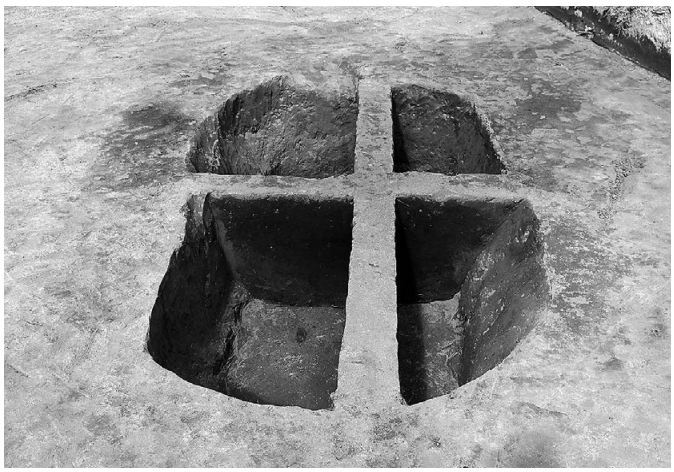
SK002 半裁　北から

SK002 完掘　北から

SK003 出土状況　東から


SK003 完掘　東から

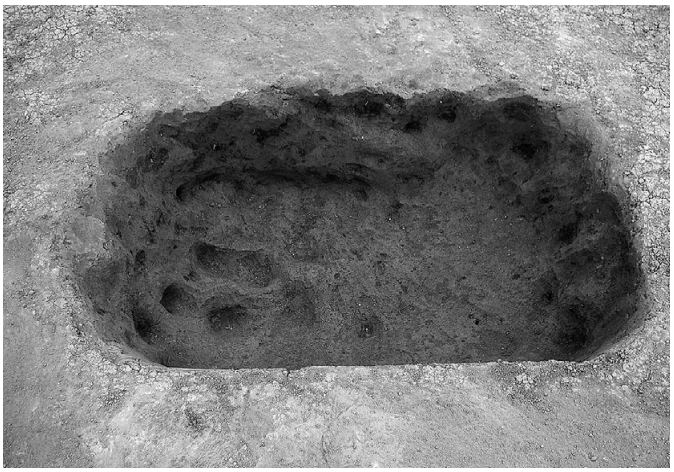
SK004 完掘　北西から


SK005 断面　南西から

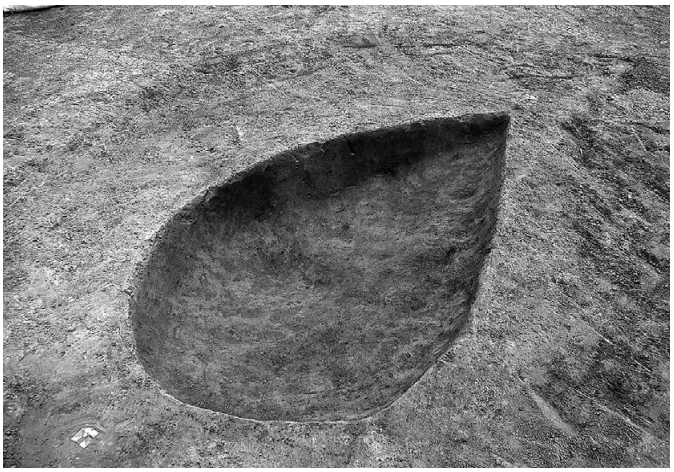
SK005 完掘　南西から

SK005 完掘　南東から

SK005 ピット近景　南から

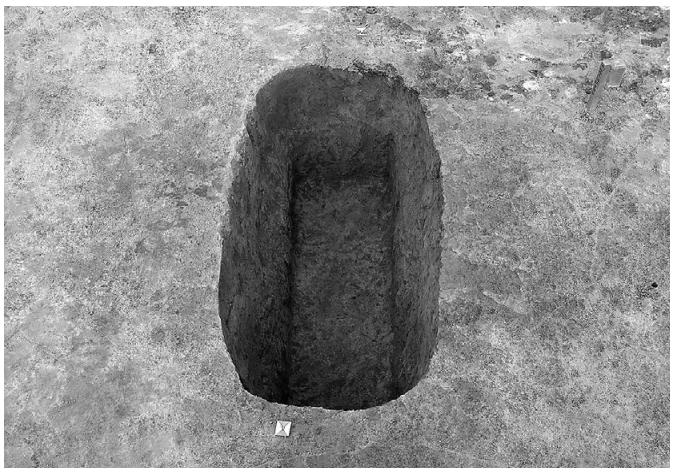

SK006 完掘　西から

SK007 完掘　南から

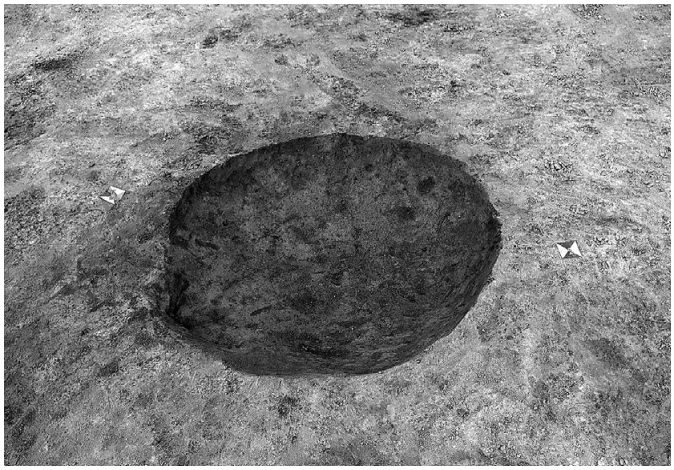

SK008 完掘　北東から

SK009 完掘　東から

SK010 半裁　西から


SK010 完堀　南から

SK011 完掘　南から


SK012 完掘　西から

SK013 完掘　南から

SK014 完掘　南から

SK015 完掘　南西から

調査区全景　北から

調査区南側全景　南西から

調査区北側全景　北西から

SI002－5

SI002－6

SI002－8

SI002－10

SI002－11

SI002－12

SI002－13

SI002－18

SI002－20

SI002－21

SI004－1

SI004－2

SI004－6

SI004－8

SI004－11

SI004－14

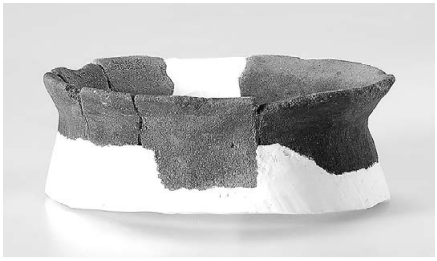
SI005－2

SI006－3

SI006－5

SI006－13

SI007－2


SI007－5

SI007－6

SI007－7

SI007－8

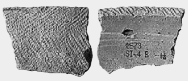
SI007－9

SI007－10

SI001

SI001－1

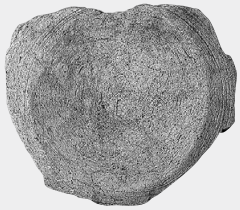
SI001－2


SI001－3

SI002

SI002－1

SI002－2

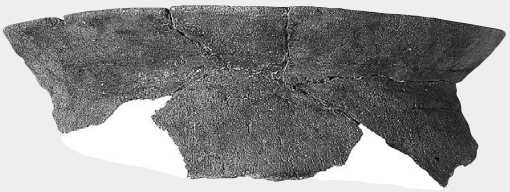

SI002－3

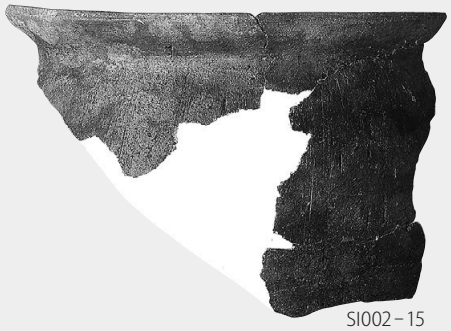
SI002－4

SI002－7

SI002－9

SI002－14


SI002－16


SI002－15

SI002－17

SI002－19

0 10 cm
（1／3）

SI002

SI002－22

SI002－23

SI002－24

0 10cm
（1／3）

SI002－25

SI002－26

SI002－27

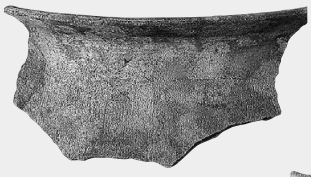
0 5cm
（1／2）

SI004

SI004－3

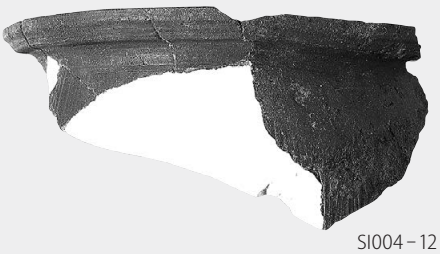
SI004－4

SI004－5



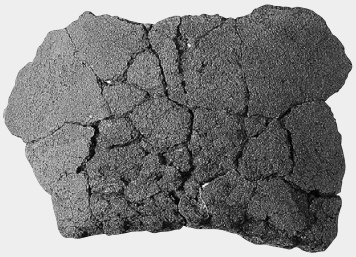
SI004－7

SI004－9



SI004－12

SI004－10



SI004－13

0 10cm
（1／3）

SI004－15

SI004－16

0 5cm
（1／2）

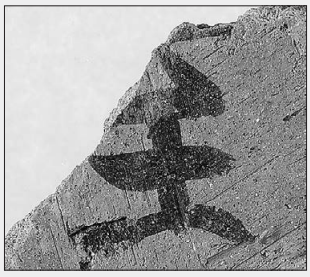
SI005

SI005－1

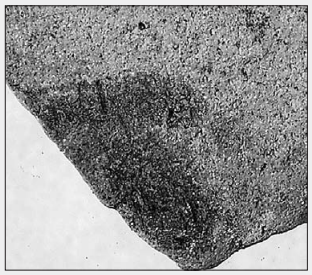
0 10cm
（1／3）

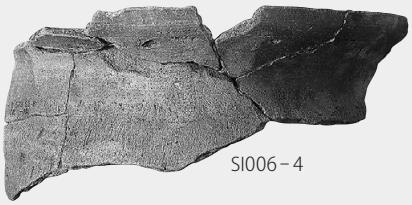
SI006

SI006－1



SI006－2





SI006－4

SI006－6

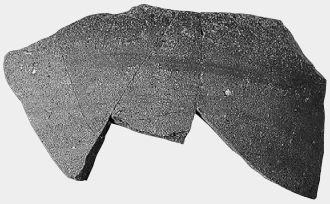
SI006－8

SI006－7

SI006－9

SI006－14

SI006－10



SI006－11

SI006－12

0 10 cm
（1／3）

SI006－16

SI006－15

SI006－17

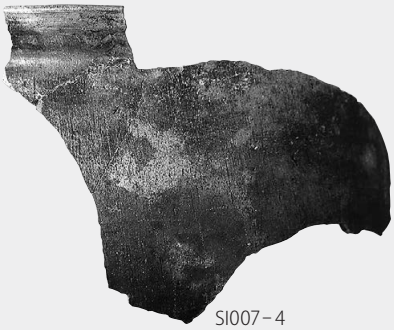
SI006－18

0 5 cm
（1／2）

SI007

SI007－1

SI007－3

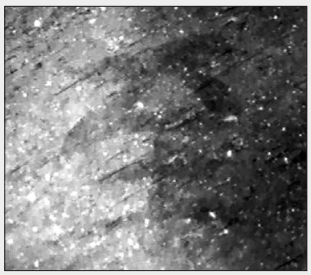


SI007－4

0 10 cm
（1／3）

SI007

SI007－6



SI007－8

0 10cm
（1／3）

SI007－11

SI007－12

SI007－13

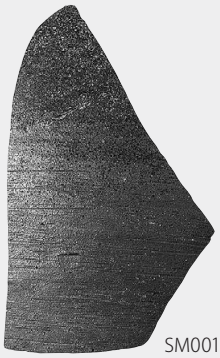
0 5cm
（1／2）

SI007－14

0 3cm
（1／1）

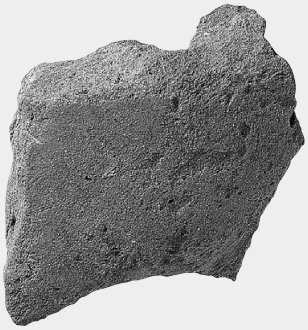
SM001

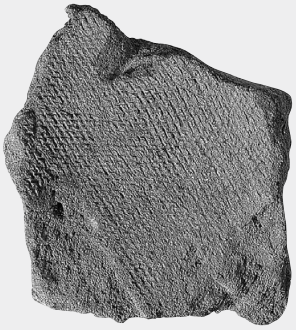
SM001－1



SM001－2

0 10cm
（1／3）



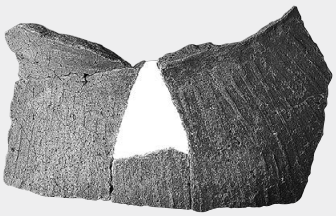


SM001－3

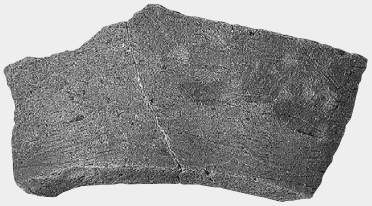
0 5cm
（1／2）

SM002

SM002－1



SM002－2



SM002－3

SM002－4

SK003

SK003－1

SK004

SK004－1

0 10cm
（1／3）

遺構外

遺構外－1

遺構外－2

0 5cm
（1／2）

報 告 書 抄 録

ふりがな	いちはらしみなみおおひろいせき（しーちく）
書　名	市原市南大広遺跡（C 地区）
副書名	
巻　次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第 48 集
編著者名	浅野健太
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）
所在地	〒 290-0011　千葉県市原市能満 1489 番地　TEL 0436（41）9000
発行年月日	2020 年（令和 2 年）3 月 23 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
みなみおおひろいせき（しーちく） 南大広遺跡（C 地区）	いちはらしやまきあざみなみおおひろ 市原市山木字南大広 44 番 1 の一部	12219	805	35° 30′ 42″	140° 08′ 51″	20190716 ～ 20190920	3,152.991 ㎡	戸建専用 住宅用地 の造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南大広遺跡（C 地区）	包蔵地・ 寺院跡・ 生産遺跡	縄文時代、 弥生時代、 古墳時代 ～ 奈良時代、 平安時代、 時期不明	縄文時代土坑 3 基、 弥生時代竪穴建物跡 1 棟、 古墳時代～奈良時代方墳 2 基・土坑墓 1 基、 平安時代竪穴建物跡 6 棟、 時期不明土坑 11 基	縄文土器（早期・後期）、 弥生土器（後期）、 土師器・須恵器（平安時代）、 原始灰釉陶器・灰釉陶器、 礫・石製品（紡錘車）、 土製品（土製支脚・ミニチュア土製品・布目瓦）、 鉄製品（鎌・刀子・釘など）	「𤰞」などの墨書土器が出土

要　約	蕨手刀を埋納した基壇が検出された、古代寺院である B 地区北側の調査を実施し、弥生時代と平安時代の竪穴建物跡を検出した。B 地区と時期的に一致する集落であることから、寺院の運営集落とみられる。さらに、古墳時代終末期から奈良時代前半ごろの墓域も検出した。

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第48集

市原市南大広遺跡（C地区）

令和2年 3 月 23 日　発行

編　集　市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436（41）9000

発　行　有限会社市原土地建物センター
市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1−1−1
TEL 0436（22）1111

印　刷　三陽メディア株式会社　市原営業所
千葉県市原市五井東3−47−10
TEL 0436（22）4348